

付録

付録目次

1. 写真	96
2. 子どもたちの語り	101
2-1. 平成23年度	101
2-1-1. 平成23年度1学期	102
2-1-2. 平成23年度2学期	102
2-1-3. 平成23年度3学期	103
2-2. 平成24年度	103
2-3. 平成25年度	104
3. 子どもたちの見た夢	106
3-1. 平成23年度	106
3-1-1. 平成23年度1学期	106
3-1-2. 平成23年度2学期	107
3-1-3. 平成23年度3学期	107
3-2. 平成24年度	107
3-3. 平成25年度	108
4. にこにこ相談室便り	109
4-1. 平成23年度	109
4-2. 平成24年度	136
4-3. 平成25年度	147
5. 個別面接の質問用紙	149
6. 各学会の発表資料	161
7. 埼玉教育の原稿	168
8. 関係者の感想や意見	170

1. 写真

写真1. 小学校の概観



写真2. 小学校の廊下



写真3. 双葉町の皆さんを迎える



写真4. 相談室の入口



写真5. 相談室の中その1



写真6. 相談室の中その2

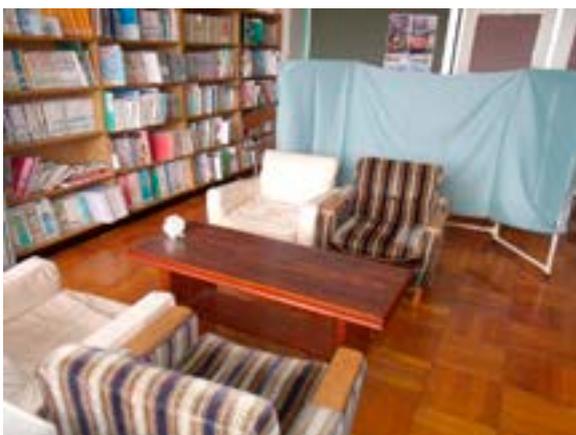


写真7. 相談室の壁



写真8. グループワーク 1



写真9. グループワーク 2



写真9. グループワーク 3



写真11. グループワーク 4



写真12. グループワークのルール

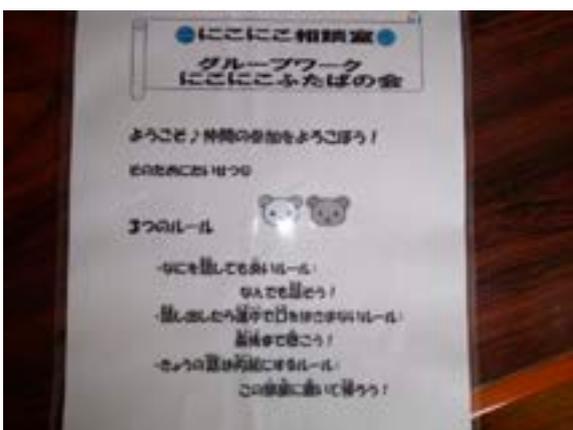


写真13. 廊下から教室



2. 子どもたちの語り

平成23年度から25年度にかけて、個別面接で児童が話した内容のなかで、子どもならではの声として印象に残ったものの一部を記載する。子どもたちは、その存在ゆえに、大人は考えないようなことを考え、さまざまな思いを抱くことが、子どもの語った内容から推察される。第1に、子どもならではのポジティブさとして、「避難所を出たおにぎり一個が美味しい」、「新しく友だちができると、元気が出てきて、たいへんさがなくなる」などである。第2に、子どもならではの感覚として、「一緒に揺れると地震は怖くない」、「地震は揺れて楽しいもの」などである。第3に、子どもならではの体験の仕方として、「避難生活は他の児童と一緒になので楽しい」、「スーパーアリーナの通路での生活はわくわくした」などである。第4に、子どもならではの健気さとして、「元気にしようと思う」、「心配かけないようにしようと思う」、「元気でいることが自分たちにできること」などである。第5に、子どもならではの心配として、「原発は毒」、「放射能が一度付いたら二度と取れない」などである。第6に、子どもならではの思いとして、「新しい勉強机で勉強がしたかった」、「新しいランドセルはどうなったのか」などである。第7に、子どもならではの悲しみとして、「一時立ち入りに子どもは行けない」、「袋に入らない自転車が持ってきてもらえない」、「引き出しに入っているカードが持ってきてもらえない」などである。

2-1. 平成23年度

2-1-1. 平成23年度1学期

(1) 地震

- ・地震は、僕が6歳になったから、あまり怖くなかった。1年男子
- ・地震はただ揺れるだけ。友達と地震のとき笑っていた2年男子
- ・揺れるのが好き2年男子
- ・じっとしていればいいから怖くなかった。2年男子
- ・地震のとき、車に乗っていて、タイヤが取れたと思った。2年男子
- ・何も怖い気がしなかった。こういうこともあるのかなと思った。3年男子
- ・地震は何とも思わなかった。3年男子
- ・地震は揺れておもしろかった。3年女子

(2) 津波

- ・津波が家のギリギリまで来たのを見た。田んぼから畑に波が来てもう少しで家に来るところだった。1年男子
- ・僕の家が震源地だった。震度8。1年男子
- ・海の上から出て、顔にかかるもの、海に近い人は津波が来て、海に近くない人は地震が来た。2年男子
- ・お母さんたちだけ見に行くのはずるいと思う。3年女子
- ・地震は片付ければいけど津波はなくなっちゃう。5年男子

(3) 原発

- ・僕の家が原発で、僕の家が震源地だった。1年男子
- ・原発は壊れてはいけないところが壊れた。1年男子
- ・僕、意味がわかんないけど、原発のことで家が気になる。1年男子
- ・壊れると火事みたいなものが起きて危ないもの。1年男子
- ・原発は石みたいなもの。1年男子
- ・毒。2年男子
- ・何であるの原発って思う。4年女子

(4) 学校生活

- ・給食のルールが違う、牛乳が瓶じゃない、紙パックを開かないといけない。3年女子
- ・給食を食べるときに、給食着を脱いじゃダメなこと。4年男子
- ・食べ物が困る、毎日お弁当だから、カレーが食べたいと思う。4年男子
- ・教科書が変わって良くわからない。5年女子
- ・給食の牛乳が牛乳パック。双葉町ではびんだった。5年男子

(5) 家庭生活

- ・みんなと遊べるから良い。うちより良い。2年男子
- ・自分の家ではないから大きな声が出せない。6年女子

(6) その他

- ・鍵盤ハーモニカがもらえると聞いてドキドキする、物をもらうときにドキドキする。4年女子

2-1-2. 平成23年度2学期

(1) 地震

- ・地震楽しいです。楽しくなっちゃう。3年男子
- ・マグニチュード9.0までは僕はだいじょうぶ。6年男子

(2) 津波

- ・危ないもの、30kgくらいある。2年男子
- ・津波は地震より恐ろしい。地震は命が助かるけど、津波は波のお化けだから。6年男子

(3) 原発

- ・3月11日は金曜日だから次の日の土曜日は遊ぶ約束をしていた。それなのに遊べなくなった。4年男子
- ・なんで双葉町に造ったのかわかんない。双葉町って小っちゃいのに、何で作ったのかわかんない。6年男子

(4) 学校生活

- ・ブラスバンドの部長だった。音楽室の楽器が心配。6年女子

(5) 家庭生活

- ・うちと学校がこっちに来ればよいと思う。2年女子
- ・家にいたときは、ごはんを家で作っていたのに、毎日毎日お弁当。ごはんがおいしくな

い。卵焼きが食べたい。3年男子

- ・桃や野菜やスイカが心配。2年男子

(6) その他

2-1-3. 平成23年度3学期

(1) 地震

- ・地震はちょっと怖かったけど、友だちがいたから、あんまり怖くなかった。地震へっちゃらだよ。2年男子
- ・地震はびっくりした。おもしろかった。2年男子
- ・地震は楽しい。2年男子

(2) 津波

- ・津波はふつうだった。海が怒ったみたい。1年男子

(3) 原発

- ・原発がなかったら、電気がないけど、原発の人も悪いと思う。だって、原発は絶対爆発しないと行ったのに、爆発したから。2年男子
- ・原発は毒、セシウム。2年男子
- ・原発って、大人たちは耐えきれないけど子どもたちは耐えきれない。4年男子
- ・原発は電気を作るもの。爆発しないはずなのに。冷やすはずなのに、冷やさず停止になっちゃった。4年男子
- ・電気を作るから必要だけど、事故は失くして欲しい。6年女子
- ・安全にしてほしい。6年男子

(4) 学校生活

- ・給食のルールが違う、牛乳が瓶じゃない、紙パックを開かないといけない。3年男子
- ・給食を食べるときに、給食着を脱いじゃダメなこと。4年男子
- ・教科書が変わって良くわからない。5年女子
- ・給食の牛乳が牛乳パック。双葉町では瓶だった。5年男子

(5) 家庭生活

- ・みんなと遊べるから良い。うちより良い。2年男子
- ・自分の家ではないから大きな声が出せない。妹とけんかができない。6年女子
- ・食べ物が困る、毎日お弁当だから、カレーが食べたいと思う。4年男子

(6) その他

- ・震災があったから、何か手伝おうって思っている。ごはんつくりやコップ洗い。3年女子

2-2. 平成24年度

(1) 地震

- ・地震があって、中ノ目なかのめの合図が鳴って怖くなった。2年女子
- ・地震速報は怖い。顔が真っ青になる。3年男子
- ・緊急地震速報を繰り返し思い出す。5年女子

(2) 津波

なし

(3) 原発

- ・パパが原発で働いているから、何かあったら危ないなって心配。2年女子

(4) 学校生活

- ・騎西小の牛乳はどうして瓶じゃないのか。3年男子
- ・中学になったら、5年（加須に来た）ときみたいに話しかけてくれるかな。6年女子

(5) 家庭生活

- ・双葉町にある二段ベッドがもったいないと思う。2年女子
- ・思い出の写真が変なふうになっていないかなあと心配になる。2年男子
- ・おとうさんが福島に仕事に行っていて、いないので、兄弟喧嘩のときに、母しかいないから、母が大変。母が病気になっちゃったら、どうしようかと思う。5年男子
- ・双葉町にある二段ベッドがもったいないと思う。6年女子

(6) その他

- ・けんかしないで仲良く遊んで、また新しい友達が引っ越して来たらすぐ友だちになったらいい。3年男子

2-3. 平成25年度

(1) 地震

- ・災害に対する思いが前よりも強くなった。すごく小さな地震でも、ああどうしようと思う。2年女子
- ・もう体験したくない 3年女子
- ・家がななめになった。4年男子
- ・教室で地震があった時みんな泣いていた。6年女子

(2) 津波

- ・おかあさんの車の後ろの方に茶色いものが見えた。2年女子
- ・猫が流された。3年女子

(3) 原発

- ・すぐに地震とかで爆発しちゃうから弱いものなのかと思う。3年男子
- ・すごくむずかしいこととかをやっそう。3年男子
- ・問題いっぱいありすぎ。4年男子

(4) 学校生活

- ・みんなと訛りとかが、かみ合わないから、双葉町の言葉は訛っていると笑われそうで不安。3年男子
- ・こっちは宿題が多い。6年男子
- ・高校とかに受かるかな、あとは、ちゃんと勉強についていけるかなあ。6年男子

(5) 家庭生活

・海がないので海の匂いがしなくてさみしい。4年男子

(6) その他

・災害に対する思いが前よりも強くなった。すごく小さな地震でもああどうしようと思う。

6年女子

3. 子どもたちの見た夢

平成 23 年度から 25 年度にかけて、個別面接で子どもたちが夢を見たことについて話した内容を以下に記載する。子どもたちが、「夢を見た」と自主的に話した内容であり、詳しく尋ねることはしていないため、短い文章に留まっているものが多い。

3-1. 平成 23 年度

3-1-1. 平成 23 年度 1 学期

- ・恐竜の夢 1 年男子
- ・夢を見る 1 年男子
- ・怖い夢を見る 1 年男子
- ・怖い夢を見る 2 年男子
- ・怖い夢を見るのが少し増えた 2 年男子
- ・川俣町では悪い夢ばかり見た。スーパーアリーナでは良い夢と少し悪い夢を見た。騎西では少し良い夢が増えた。夢はアパートにいるとき地震がなったり、かみなりが来たりする夢。あと、事故があつて、アパートが炎になる夢。2 年男子
- ・白い着物を着て家に入ってみると中身がふつうはぐちゃぐちゃでしょう？それなのにきちんとしている。でもドアを閉めるときドアのガラガラが鳴らない” という夢。2 年男子
- ・怖い夢を見る。2 年男子
- ・怖い夢を見る。2 年女子
- ・怖い夢を見る。骸骨の夢、骸骨の死神の夢。2 年男子
- ・怖い夢を見る。前から見る。パクパクするものに追いかける夢。でっかいカンカラやお地蔵さんに追いかける。3 年男子
- ・怖い夢を見る。3 年男子
- ・怖い夢を見る。3 年男子
- ・怖い夢を見る。3 年男子
- ・怖い夢を見る。3 年女子
- ・怖い夢を見る、地震が起きて～という夢。4 年男子
- ・怖い夢を見るけど、今はない。双葉町の方があつた。4 年男子
- ・怖い夢を見る。4 年女子
- ・怖い夢を見る。4 年女子
- ・怖い夢を見る。4 年女子
- ・怖い夢を見る。4 年男子
- ・怖い夢を見る。4 年女子
- ・怖い夢を見る。5 年女子
- ・双葉町の地震の夢を見る。5 年女子
- ・地震のときの夢、友だちに会った夢を見る。5 年女子
- ・怖い夢をたまに見る。たとえば、家族みんながいなくなったり、おばけが出てきたりす

る夢。5年女子

- ・みんなに会う夢を見る、夢だから残念。5年女子
- ・たまに怖い夢を見る。6年女子
- ・怖い夢を見る。6年女子
- ・怖い夢を見る。6年男子
- ・3日に2回怖い夢を見る。6年男子

3-1-2. 平成23年度2学期

- ・まれに、怖い夢を見ることがある。小1女子
- ・怖い夢をいつも見る。こうもりが出る。幽霊が出る。泥棒が入ってくる。毛虫が手にくっつく夢。手や体にいっぱいつく。小1女子
- ・双葉町にいるとき、父母と僕が離れる夢を見て、本当かなと思ったらウソだった。父が「寝ているとき心臓に手を当てていたら、怖い夢を見る」と言ったので、手を離して寝るようになった。小1男子
- ・怖い夢を見なくなった。小1男子
- ・怖い夢を見る。捨て犬や捨て猫の夢を見る。捨て猫や捨て犬は嫌い。嫌いな夢を見る 小2男子
- ・怖い夢を見なくなった 小2男子
- ・怖い夢をたまに見る。ずっと頭の中で考えているとそれが夢に出てくる。小2男子
- ・怖い夢を見なくなった 小2女子
- ・怖い夢を見る。田んぼがぐちゃぐちゃになる夢。小2男子
- ・今日見た怖い夢。男でも女でもない口しかないものに、追いかけられた。毎日その続きを見る。遅いから食べられちゃう。歩いてる、走れない。丸呑みにされるから。お腹にそのまま入って、その中はいいところで死なない。僕のペットにする。口をペットにされた。寝るから夢を見て、その中でもまた夢を見て、またその中で夢を見てる。小3男子
- ・怖い夢を見なくなった。小3男子
- ・夢をいっぱい見る。お地蔵さんや落とし穴の夢。怖い夢しか見ない。小3男子
- ・怖い夢を今も見ると。小4女子
- ・怖い夢を見る。小4女子
- ・怖い夢は前より出なくなった 小4女子
- ・夢に良く双葉町のことが出てくる。小4女子
- ・怖い夢も見なくなった。小5女子
- ・地震の怖い夢を見る。学校にいるときにすごく揺れる夢を見る。小5女子
- ・怖い夢は減ったけどまだ見る。双葉町の地震の夢。小6女子

3-1-3. 平成23年度3学期

- ・怖い夢を見る。双葉町の家から恐竜が出てきて騎西を壊す夢。友だちが双葉町の家に来

ている時、恐竜が出てきてみんなやられちゃう夢。1年男子

- ・怖い夢を見る。1年女子
- ・怖い夢を見る。2年男子
- ・怖い夢を見る。2年女子
- ・殺される夢、包丁を持って。2年女子
- ・殺される夢、包丁を持って。2年男子
- ・バイオハザードの夢を見る。3年男子
- ・怖い夢を見る。お母さんとぼくが歩いているとお母さんが刺される夢。小4男子
- ・猫のフクの夢を見る。フクと呼んだら起きちゃった。小4女子
- ・怖い夢を見る、震災後に妹の〇〇〇が急に泣いてしまう夢。小5女子
- ・怖い夢を見る。起きるのが遅くなった。友だちと遊んでる夢が出てくる。小5女子
- ・怖い夢を見る。小5女子
- ・3月11日の夢を見た。地震の後おばあちゃんちの車に乗せられて逃げていた。その夢は放射能のことなのかなと思う。小5女子

3-2. 平成24年度

- ・夢をよく見る。3月11日みたいに津波が出ちゃって、保育園が津波に流される夢をよく見る。2年女子
- ・お客さんが来てひとりになってしまう夢をよく見る。救急車の夢も見る。2年女子
- ・夢を見る。3年女子
- ・怖い夢を見る。知らない人の夢。3年女子
- ・夢を見る。双葉町にいて友だちや猫のフクちゃんと遊んでいる夢。5年女子
- ・すごく揺れたのが夢に出てくる。6年女子
- ・ときどき、夢に、地震が出てきたり、離ればなれになったりするところが出てきたりする。6年女子
- ・夢ってわかってるからいいんだけど、地震の夢を見る。でも地震があるから、また来るかと思って怖い。6年女子

3-3. 平成25年度

- ・最近はないけど前は海が津波に代わっちゃう夢を良く見た。夜中に目がさめちゃった。2年女子
- ・夢で、ともだちの頭と体がちぎれちゃう夢を見た。首の上は笑っていた。2年男子
- ・地震が夢に出てくる。5年男子
- ・最近、双葉町の友だちの夢を見る。中1女子
- ・最近、双葉町の夢を見る。中1女子
- ・原発が全部夢に関係している 中1女子

4. にこにこ相談室便り

4-1. 平成23年度

①平成23年度 初号 にこにこ相談室便り(全家庭向け)

ちょっとだけでも
おはなしに きませんか

騎西小学校の中に、こんな部屋を設けました。

1 場所 「にこにこ相談室」
※ 校舎2階 図書室となります。
※ 西児童昇降口からお入りください。
※ 職員室に一声だけかけてください。

2 時間 月曜日・木曜日・金曜日の
午前10時～午後3時

3 おはなしを聞いてくださる方
月・木曜日 担当
たけかわ かつこ スクールカウンセラー
竹川 佳津子 先生
月・金曜日 担当
しのづか みちこ スクールソーシャルワーカー
篠塚 三千子 先生

4 対象 子どもたち・保護者の方
どなたでも結構です。

5 内容
どんなことでも、お話を聞いてくださいます。
相談にのっていただくこともできます。
秘密は守ります。

※ 不明な点は、本校職員にお尋ねください。

加須市立騎西小学校長 松井 政信

にこにこ相談室だより

今年度、騎西小学校に“にこにこ相談室”が開設され、1 学期の間、子どもたちや保護者の方々が相談にやってきました。引き続き、夏休みも下記の通り、相談室を開いていますので、子どもたちも保護者の方もどうかお気軽にお越しください。

1. 場所 “にこにこ相談室”
校舎 2 階 図書室のとなりです。
西児童昇降口からお入りください。
2. 相談員 スクールカウンセラー 竹川 佳津子（臨床心理士）
3. 日にち 7 月 21 日(木)、25 日(月)、28 日(木)
8 月 2 日(火)、4 日(木)、9 日(火)、11 日(木)、23 日(木)、
8 月 24 日(木)、25 日(月)、29 日(月)、30 日(火)
4. 時間 10 時から 4 時まで（時間は応相談）
5. 方法 学校にお電話（0480-73-0004）ください。
基本的に予約制になります。大竹もしくは羽鳥が予約の対応をいたします。
折り返しスクールカウンセラーから日時のご連絡を致します。
6. 内容 子どもたち：学校のこと、勉強のこと、お友だちのこと、自分のこと、将来のこと、家のこと、気がかりなことなど
保護者の方：子育てのこと、お子さんの性格や傾向、学校のこと、家庭のことなど、お子さんをめぐるいろいろなこと
7. 約束 大切なお話ですので、秘密は厳守いたします。



にこにこ相談室で
一緒に考えましょう！

平成 23 年 7 月 吉日

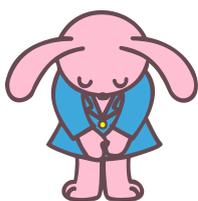
にこにこ相談室だより

第 1 弾 平成 23 年 6 月 17 日

にこにこ相談室では、おやすみ時間に騎西小のみなさんが自由に相談をすることができます。また、6 月中は、先生方にご協力をいただいて、双葉町から来た子どもたちの面接をおこなっています。現在のところ、約半分の面接ができました。結果については、後ほど詳しくお伝えいたしますが、おおまかには現在のところ、以下のような状況です。

- ・地震や津波を怖いと思い、今も気にしている子が多い。
- ・原発を怖いものと感じ、とても心配に思っている子が多い。
- ・双葉町の時と比べて、身体や心に変化を感じている子が多い。
- ・双葉町のことや先のことを気にしながらも、元気で頑張ろうと思っている。
- ・勉強や学校生活、普段の生活で困っていると答える子は少ない。
- ・ともだちが増え、不満を持つことは少なく、規則正しく生活している。

小さいながら、あれこれ思いを巡らせながら元気に過ごしているようですが、不安を抱えている子どもたちも少なからずいるようです。



クラスの全員が終わっていない先生方、まだ実施できていないクラスの先生方、どうかよろしく願いいたします

④平成 23 年度 第 1 号 にこにこ相談室だより（双葉町の家庭向け）

⑤平成 23 年度 第 2 号 にこにこ相談室だより（全家庭向け）

にこにこ相談室だより

平成23年 12月15日

グループワーク：にこにこふたばの会

“にこにこ相談室”で、10月の終わりから行っている“にこにこふたばの会”というグループワークですが、おかげさまで、学年ごとに1回ずつ全学年に実施することができましたので、その内容をご報告いたします。

10月22日 2年生男女

▲テーマトーク：双葉町はどんなところ

- ・楽しかった
- ・嬉しかった
- ・田舎でした
- ・信号がいっぱいあります
- ・広がった

▲フリートーク：海のこと、駅のこと、竹馬のこと、地震のこと、山のこと、置いてきたおもちゃのこと、帰れない、帰りたい

10月27日 1年生男女

▲テーマトーク：双葉町の思い出

- ・おとうさんがやっていたトラクター
- ・おとうさんとキャッチボールをしたこと
- ・ようちえんでともだちと遊んだこと
- ・休みの日、晴れたときに、おじいちゃんと田んぼを見に行ったこと
- ・犬と一緒に散歩をしたこと

▲フリートーク：幼稚園で遊んだ様子、保育園で卒業制作の大きな絵を描いたこと、絵はそのまま置いてあること

11月10日 4年生男子

▲テーマトーク：双葉町の良いところ

- ・自転車で坂を下るのが楽だ。
- ・坂を車で上るときなかなか進まない。
- ・近くの山でおとうさんが木を集めてきた。
- ・坂を下りると田んぼで囲まれていて、3時にはぜんまいをゆでて食べた。
- ・食べられる草があって、あけびも食べた。
- ・山の近くには自然がたくさんあった。

- ・坂が凍る。
- ・田んぼに友達が遊びに来て、ザリガニを取った。
- ・家の近くの橋の下には秘密基地があった。
- ・自然はいいけど、ありすぎると怖いこともある。イノシシもいた。

▲フリートーク: 大熊町のラーメン屋さんで晩ごはんを食べたこと、森に行くルートのこと、木を取ったりして、何かないかを探していたこと、自然に囲まれていたこと

11月17日 4年生女子

▲テーマトーク: 双葉町の良いところと悪いところ

- ・双葉町は近くにあまりマーケットがない。
- ・家に青大将がすぐきちやう。
- ・双葉町のともだちは話しやすい。
- ・桜の木がきれい。
- ・カチューシャしてるとかわいいと双葉町では言われたのに、騎西ではかっこつけてると言われる。
- ・良いことを言うと騎西では“自慢？”って言われちゃう。
- ・発音が違う。
- ・双葉町は過ごしやすい。
- ・海がきれい。
- ・前田の大杉は樹齢千二百年。

▲フリートーク: 双葉町の方がいい、同じことでもとらえ方が違う。

11月24日 3年生男女

▲テーマトーク: 双葉町の学校について

- ・第1校庭と第2校庭があった。
- ・騎西の体育館より大きい。
- ・学校を出るとすぐに木や花が見えて、坂を下る。
- ・双葉町の学校の先生は怖くても優しい。悪いことをすると怒るけど、優しく叱る。
- ・ともだちは優しく怒ったりしない。
- ・下駄箱があった。購買があった。縄跳びが買える。
- ・先生がしっかり叱ってくれた。
- ・給食を残しても叱られなかった。半分だけって言われた。
- ・先生は優しいけど、怒ると恐かった。

▲フリートーク: ・騎西でなかなかともだちができなかった、生まれが一緒だから双葉町は違う、双葉町では一日でともだちができた。

11月28日 5年生男女

▲テーマトーク: 避難について

- ・双葉町の学校→公民館→川俣→埼玉

- ・双葉町→三春→東京→埼玉
- ・小学校→中学校→川俣→埼玉スーパーアリーナ→騎西
- ・南小→北小→川俣→仙台→埼玉スーパーアリーナ
- ・南小→中学校→神奈川→埼玉スーパーアリーナ

▲フリートーク:・原発がなくなってほしい、双葉町のともだちに会いたい、おばあちゃんちの梅が食べられない、どうして双葉町に原発を立てたのか、学校に行って置いてきたものを取ってきたい、大人になったら一時帰宅をしておもちゃを取ってきたい

12月1日 6年生男女

▲テーマトーク:双葉町の良いところについて

- ・海がきれい
- ・山がきれい
- ・お店がいっぱいある
- ・2つの学校がある

▲フリートーク:・北小には、ブラスバンド、空き缶ザウルス、英語クラブ、みどりの少年団。南小には、合唱部、英語クラブ、清戸迫のぐるぐる(古墳の壁画)がある

いろんな双葉町のことを話す子どもたちの表情は生き生きとしています。どのお話も大切な内容で、ほかの子につられるように次々に話が出てくることがあります。にこにこ相談室では、双葉町の子どもたちが安心して話せる場を作っていきたいと思っています。

スクールカウンセラーより

にこにこ相談室だより

第 2 弾

にこにこ相談室が始まって 3 か月余りが経過して、子どもたちもときどき訪ねてくださるようになりました。また、先生方にご協力をいただいて進めてきた双葉町から来た子どもたちの面接は、おかげさまで全員に行うことができました。

☆ 騎西の子どもたちの相談内容

1. おともだち関係（やめてくれない、仲良くできないなど）
2. 家のこと（きびしく注意される、わかってもらえないなど）
3. 自分自身のこと（将来のこと、宿題のこと、苦手なことなど）

☆ 双葉町の子どもの状況

1. 地震や津波の怖さは、時間の経過とともに減ってきている
2. 原発は相変わらず怖いと言う子が多い
3. 最近になって、さみしい、悲しいという声が増えている
 - ・ペットや大切なものを置いてきたこと
 - ・おともだちとの別れ
 - ・双葉町に帰ることはできるかどうか
4. 体調に変化を感じる子どもが多い（疲れやだるさなど）
5. 現在の生活に、困っていると答える子はほとんどいない
6. ほぼ全員が“元気ががんばろうと思っている”と言う

埼玉での生活に慣れてきて、気持ちにすこしゆとりができてきたので、今までこころの中にあった“さみしい”や“悲しい”という思いが、ようやく感じられるようになったのかもしれません。引き続き、にこにこ相談室ではこのような声に耳を傾け、周囲のおとなたちがどのようなことをすれば、手助けになるのかを考えていこうと思います。

騎西のみなさんの相談も引き続き、大切にしていこうと思います。夏休みもにこにこ相談室は開設する予定ですので、先生方や保護者の方々の相談も大歓迎です。



にこにこ相談室 竹川

にこにこ相談室だより

第 3 弾

今年度、にこにこ相談室が始まって、1 学期が無事終わろうとしています。先生方をご親切にご協力くださったおかげさまで、双葉町から来た子どもたちの全員面接が無事終了し、騎西の子どもたちの相談もたくさんありました。本当にありがとうございました。

夏休みも引き続き、にこにこ相談室を開設いたします。どうかよろしく願いいたします。

1. 夏休みの“にこにこ相談室”

- ・双葉町の子どもたちのフォロー面接
- ・騎西の子どもたちの相談
- ・先生方との情報交換やコンサルテーション
- ・保護者の方の相談

ご家庭にお便りを配布します。

保護者の方がご希望の際は、小学校にお電話をいただきます。

大竹先生と羽鳥先生に窓口になっていただくことになりました。

両先生がいらっしゃらないときは、保護者の方のご希望日時とご連絡先をうかがっておいてください。

のちほど、竹川が保護者の方にご連絡をして日程の調整をいたします。

2. 日にち

7月21日(木)、25日(月)、28日(木)

8月2日(火)、4日(木)、9日(火)、11日(木)、23日(木)、

8月24日(木)、25日(月)、29日(月)、30(火)

サマースクールやプールの時間を利用して、相談室をご活用ください。



にこにこ相談室 竹川

⑧平成 23 年度 第 3 号 にこにこ相談室だより（双葉町の家庭向け）

⑪平成 23 年度 第 6 号 にこにこ相談室だより（教職員向け）

にこにこ相談室だより

平成23年 11 月10日

新たな活動：にこにこふたばの会

“にこにこ相談室”では、10 月の終わりから新しい活動を始めています。それは、双葉町の子どもたちを中心とした“にこにこふたばの会（仮称）”というグループワークです。

これまで：1 学期～夏休みの間、ふたばの児童に面接を2回行いました。その結果として、1回目は、震災の影響や避難生活の不安、学校生活の戸惑いなどが多く語られました。2回目は、不安や戸惑いは軽減したようで、双葉町のことや双葉町への思いを話す内容が増えました。多くの子どもたちが、「元気でがんばろう。それが自分たちにできることだ」と話してくれました。子どもなりに工夫をしながら、不安に負けないように、一生懸命、状況に適応しようしているというのが、全体の印象でした。

そこで：面接の結果、心配だったり、気がかりだったりする内容もないわけではありませんが、それなりに頑張っていることがわかりました。それで、にこにこ相談室としては、子どもたちのいろいろな思いをグループで共有していこうと考えました。

これから：学年毎に、にこにこふたばの会を開催していこうと思います。

場所：にこにこ相談室

時間：放課後、15分程度

参加：自由参加

内容：スクールカウンセラーが勤務の日に、一学年ずつ実施

グループワークについて：セルフ・ヘルプ・グループ（仲間同士が支え合うグループ＝自助グループ）をベースにしています。

グループワークの特徴

- ・メンバーは共通の問題を抱えている
- ・メンバーは共通の目標を持っている
- ・メンバー同士は対等な関係にある
- ・継続性を持って運営される。
- ・参加は自発的なものである
- ・メンバーの主体性が重視される

グループワークで得られるもの

- ・自分だけではないほっとした感じが持てる

- ・ 安心感が得られ、ゆとりが生まれる
- ・ 人の話に耳を傾けることによって、問題の対処方法や解決方法が得られる
- ・ 必要な情報を交換できる
- ・ 生き生きとした他のメンバーを見て、希望を持てる
- ・ 過去の自分を振り返ることができる
- ・ お互いの成長を分かち合える
- ・ 仲間を大切に思う気持ち、仲間と尊ぶ気持ち、自分が大切にされる喜び、自分が尊ばれる喜び、自分自身を大切に思う気持ち、自分自身を尊ぶ気持ちが育まれる

グループワークのルール

- ・ 言いつばなし、聴きつばなしのルール: 話し出したら途中で口をはさまないで、最後まで聴く
- ・ この部屋で聴いたことは、この部屋に置いて帰るルール: 安心してなんでも話せるように秘密を守る
- ・ メンバーはいつも対等であることを忘れないルール: リーダーはいない、みんなが受け手で与え手である

おねがい:

放課後、子どもたちにグループワークのご案内とお誘いをしたいと存じます。参加は自由です。下校時間までには終了いたしますので、どうかご理解をお願いいたします。何かありましたら、どうかスクールカウンセラーにご相談ください。勤務は以下の日程です。どうか、よろしく願申し上げます。ご協力をお願い申し上げます。

11月の勤務日

月	火	水	木	金
/	1	2 (竹川)	3	4
7 (竹川)	8	9	10 (竹川・都丸)	11
14 (竹川)	15	16 (都丸)	17 (竹川・都丸)	18
21	22	23	24 (竹川・都丸)	25
28 (竹川)	29	30 (都丸)		

12月の勤務日

月	火	水	木	金
/	/	/	1 (竹川・都丸)	2
5	6	7 (都丸)	8 (竹川・都丸)	9
12	13	14	15 (竹川・都丸)	16
19 (竹川)	20	21 (都丸)	22 (竹川)	23
26 (竹川)	27 (竹川)	28		

にこにこ相談室だより

第 4 弾

2 学期もにこにこ相談室を開設しています。このところ、お子さんや保護者の方の相談が増加しつつあります。9 月末から、新しく都丸けい子先生がスクールカウンセラーとして来校することになりました。月、水、木曜日を基本として 2 人のどちらかが勤務しています。引き続きご活用くださいますようお願い申し上げます。

双葉町の児童さんの 2 回目の面接が無事終了しました。御協力ありがとうございました。今後は放課後を使って、グループワークをしていき、みなさんのこころのケアをしていけたらと検討中です。

都丸先生の自己紹介文を掲載します。

9 月末より騎西小学校にスクールカウンセラーとして参りました都丸けい子です。遅くなってしまいましたが、改めてごあいさつを申し上げます。週に 1～2 回の不定期の勤務で、必要な時に活用しにくい存在ではございますが、どうぞお気軽にお声をかけていただければと存じます。微力ではございますが、子どもたちやご家庭、また先生方のお役に立つことができればと願っております。どうぞよろしくお願いいたします。

児童のカウンセリングはもちろん、保護者の方の面接が必要なケースが増えているようです。先生方とじゅうぶん情報交換をして進めていきたいと思えます。

気になるお子さんの言動やご家庭の様子など、お話いただけるようお願い申し上げます。

にこにこ相談室開設日 10 月

19 日(水)、20 日(木)、24 日(月)、26 日(水)、27 日(木)、31 日(月)



にこにこ相談室より

にこにこ 通信

先生版

(0) はじめに

9 月末より騎西小学校にスクールカウンセラーとして参りました都丸けい子です。遅くなっ
てしまいましたが、改めてごあいさつを申し上げます。週に1~2 回の不定期の勤務で、必要な
時に活用しにくい存在ではございますが、どうぞお気軽にお声をかけていただければと存じ
ます。微力ではございますが、子どもたちやご家庭、また先生方のお役に立つことができれ
ばと願っております。

そこで、まずはできることから…ということで、このようなお便りを配布させていただくこ
とにいたしました。毎回、あるテーマに関して取りあげていきたいと思えます。

第1号のテーマは「こころと身体の関係を考える」です。よろしく願いいたします。

(1) 第1回のテーマ:

こころと身体の関係を考える～不快な気持ちと上手に付き あおう！～

落ち着きがない、集中できない、何だか不安が高そう…

先生がこのようにお感じになる子どもが学級にいますでしょうか？

実は、このような印象を抱かせる子どもたちの身体には、ある共通点がありま
す。

それは…

筋肉の緊張と浅い呼吸です。さらに、このような身体症状を示す子どもたちは、
そのような自分の身体の状態に鈍感になっています。

《まずは試してみてください》

① 実際に先生ご自身で「筋肉のこわばり」と「浅い呼吸」を感じてみて下さ
い。

肩、手足、お腹に力を入れて緊張させ、喉で浅くて早い呼吸をする…苦しいですね。顔
も自然とこわばり、固まってくると思います。周囲の様子が感じにくくなります。この状態

です。すぐだけで、ここには不快な気持ちが溜まってきます。

- ② 周囲にいる人をお願いして、目の前に急に手をかざしてもらったり、肩や手をつかんでももらったり、大きな音を立ててもらって下さい。

こんな時、周囲に素早く動くものを感じたり、身体に強い刺激(強く掴まれたり抑えられたり)を感じたり、大きい音や声を聴くと、強い「恐怖」を感じます。不快な気持ちがある一定程度高まると、身体は本能的に「戦闘態勢」に入ります。よけいに筋肉が緊張し、呼吸が浅くなります。周囲の全てが「敵」のように感じます。すると人間は、本能的に「逃げるか戦うか」の体制に入ります。

その結果⇒周囲からの刺激をシャットダウンしたり、そのような刺激から逃れようと突発的に奇異な行動を起こしたり…ただし、これは不快な感情からなんとか抜け出たいという、彼らなりの生き延びるための必死の対応策なのです。

- Q. どんな状況でその様な身体の状態が起こりやすい？

例えば、苦手な場面…昔嫌な思いをした場面と類似した場面…自信のない場面…等です。

年齢が低ければ低いほど、また普段抱えているストレスや不安が大きければ大きいほど、ここで感じたそのような不快は身体を通して現れやすくなります。ただし、年齢が上がっても、過去に同じような対策でしか不快な状況をやり過ごす事ができなかった子どもにとっては、身体に「習慣化」され、毎回この対処法が繰り返されることとなります。

- Q. このような悪循環から抜け出すためには？

ここと身体を完全に切り離す事は、大人でも困難です…が徐々にコントロールをする力をつけることは可能です。そのポイントは2つです。

- ① ここでの不快が身体への反応として表現されるまでの時間かせぎをする。

そのためには、普段から、自分の心と身体の状態に敏感になることです。

(普段身体が緊張状態であればある程、戦闘態勢に入りやすくなります)

身体への緊張に敏感になり、ここでの不快を身体ではなく言葉で表せるようになればベストです。

- ② ここでの不快が身体への反応として表現されてしまったあとには…

不快を助長させる刺激を絶ち、とにかくここと身体をクールダウンさせることです。強い感情の持続時間は、30分と言われています。「30分も！」と思われるかもしれませんが、どんなに強い感情も「30分だけ」じっと嵐をやり過ごせば、本能的に備わっている回復機能が自然と働きだします。つまり、30分の間ここでの不快を助長しないように刺激を断ってやりすごすことができれば、大人も子どもも30分程度で本能的にここを落ち着かせる能力が発揮できるのです。

《リラクセス法:3~5分で実施できる、簡単なエクササイズ》

① 楽な姿勢で椅子に座り、目を閉じます。

(ここで緊張が強いようだったら、顔の中心にギュッと力を入れ、ふわっと力を抜くエクササイズ⇒リラックス感を体験)

② 口から息をゆっくり吐き出し、お腹をへこませます(“吐くよー。いーち、にーい、さーん。はい止めてー”).

③ 鼻からゆっくり息を吸い、お腹をふくらませます(“吸うよー。いーち、にーい、さーん。はい止めてー”)

※ “息をはく時には、からだの力をぬいて下さい(からだ全体がリラックスしてきます)”

“自分でも、「リラックス、リラックス・・・」と心の中でつぶやきます”。

④ 息を吸う・はく(②と③)を5回くり返します。

⑤ 目を開けましょう。からだど心が楽になっています。

※教示のポイントは、お腹を使う事、息を吐く時にリラックスするよと伝えることです。教示や数を数える際には、穏やかでやや低めのゆったりとした声が効果的です。慣れないうちはこの部分を何度も丁寧に伝えて下さい。

☆ぜひ、朝の会や授業の初めなど、子どもたちの様子が落ち着かない時に定期的にご活用ください。定期的に行うと徐々に効果が出てまいります。緊張を感じたときに子どもが一人でも使うことができます。

(2)ご協力できること／ご協力させていただきたいこと一覧

《子どもたちや保護者に対して》

・カウンセリングや面談の実施

悩みや不安を抱えている子どもたちや不安の高い保護者に対してカウンセリングや面談(不安やストレスの解消も含む)を実施します。どうぞご活用ください。

・コンサルテーション(作戦会議)の実施

気になる子どもについて、その子の抱えている問題の背景に関する見立て、またそれを踏まえた学級での関わり方に関して一緒に作戦会議を行う事ができたらと思います。どうぞお気軽にお声をおかけ下さい(私からも図々しくお声をかけさせていただくかもしれませんが、その際にご容赦ください。ご多忙かとは存じますが、よろしく願いいたします)。

《学級に対して》

学級に対する各先生方のねがいやお感じになっていらっしゃる学級の課題の解決をお手伝いできればと考えています。

例えば…

・エンカウンター(人間関係づくり)の実施

ねらいは2つです。1つは人間関係の力を育てること、もう一つは自己肯定感を育てること。簡単なエクササイズを通して、これら二つについて学びます。

(先生のねらいと学級の状況に合わせた計画づくりから実施の際の補助のお手伝いまで行います)

・ソーシャルスキルトレーニングの実施

子どもたちが普段出会う可能性の高い困難を抱える状況への対処方法について、身体や頭を使ったエクササイズを通して学びます。

(先生のねらいと学級の状況に合わせた計画づくりから実施の際の補助のお手伝いまで行います)

・学級でできる短い時間を使ったエクササイズ

毎回このようなお便りの形でお伝えしたいと思います。もしも、学級の状態に合わせたエクササイズをご希望される際には、どうぞお気軽にお声をかけて下さい。

《先生方のブレイクタイムとして》

日々実践を積み重ねていらっしゃる先生方に対しておこがましいとは思いますが、日頃の教室での実践を振り返ってまとめる事のできる方法(「教師用RCRT」と呼ばれるもの)をご紹介します。ぜひ、先生方ご自身のキャリア/スキルアップのお試しとして、ご利用いただけますと幸いです(教師用RCRTは個別に行うものですが、いわゆるテストではありません。評価とは一切関係なく、プライバシーには最大限の配慮を払います。また、私から先生がたに何かをご助言・指導をするようなものでもありません)。今までご利用いただいた十数名の先生方からは、「面白い」「客観的に振り返ることができた」「自分が何を大切にしているかが改めてわかった」というご意見をいただいております。

(3)勤務日一覧(太字で白マスの日程が勤務日です)

※現時点での予定です。変更の際は事前にご連絡いたします

10月の勤務日

月	火	水	木	金
17	18	19(終日)	20(午後)	21
24	25	26(終日)	27(午後)	28
31				

11月の勤務日

月	火	水	木	金
	1	2	3	4
7	8	9	10(午後)	11



14	15	16 (終日)	17 (午後)	18
21	22	23	24 (午後)	25
28	29	30 (終日)		

12月の勤務日

月	火	水	木	金
			1 (午後)	2
5	6	7 (終日)	8 (午後)	9
12	13	14	15 (午後)	16
19	20	21 (終日)	22	23
26	27	28		

1月の勤務日

月	火	水	木	金
2	3	4	5	6
9	10	11	12 (午後)	13
16	17	18 (終日)	19 (午後)	20
23	24	25 (終日)	26 (午後)	27
30	31			

2月の勤務日

月	火	水	木	金
		1	2	3
6	7	8	9 (午後)	10
13	14	15 (終日)	16 (午後)	17
20	21	22 (終日)	23 (午後)	24
27	28	29 (終日)		

3月の勤務日

月	火	水	木	金
			1 (午後)	2
5	6	7	8 (午後)	9
12	13	14 (終日)	15 (午後)	16
19	20	21	22 (午後)	23
26	27	28 (終日)		

終日:9時半~16時半くらい
午後:12時半~4時半くらい

⑫ 平成23年度 第7号 にこにこ相談室だより (教職員向け)

にこにこ相談室だより

平成23年 12月15日

「グループワーク:にこにこふたばの会

“にこにこ相談室”で、10月の終わりから行っている“にこにこふたばの会”というグループワークですが、おかげさまで、学年ごとに1回ずつ全学年に実施することができましたので、その内容をご報告いたします。

10月22日 2年生男女

▲テーマトーク:双葉町はどんなところ

- ・楽しかった
- ・嬉しかった
- ・田舎でした
- ・信号がいっぱいあります
- ・広がった

▲フリートーク:海のこと、駅のこと、竹馬のこと、地震のこと、山のこと、置いてきたおもちゃのこと、帰れない、帰りたい

10月27日 1年生男女

▲テーマトーク:双葉町の思い出

- ・おとうさんがやっていたトラクター
- ・おとうさんとキャッチボールをしたこと
- ・ようちえんでともだちと遊んだこと
- ・休みの日、晴れたときに、おじいちゃんと田んぼを見に行ったこと
- ・犬と一緒に散歩をしたこと

▲フリートーク:幼稚園で遊んだ様子、保育園で卒業制作の大きな絵を描いたこと、絵はそのまま置いてあること

11月10日 4年生男子

▲テーマトーク:双葉町の良いところ

- ・自転車で坂を下るのが楽だ。
- ・坂を車で上るときなかなか進まない。
- ・近くの山でおとうさんが木を集めてきた。
- ・坂を下りると田んぼで囲まれていて、3時にはぜんまいをゆでて食べた。
- ・食べられる草があって、あけびも食べた。
- ・山の近くには自然がたくさんあった。
- ・坂が凍る。
- ・田んぼに友達が遊びに来て、ザリガニを取った。
- ・家の近くの橋の下には秘密基地があった。
- ・自然はいいけど、ありすぎると怖いこともある。イノシシもいた。

- ▲フリートーク:大熊町のラーメン屋さんで晩ごはんを食べたこと、森に行くルートのこと、木を取ったりして、何かないかを探していたこと、自然に囲まれていたこと

11月17日 4年生女子

- ▲テーマトーク:双葉町の良いところと悪いところ

- ・双葉町は近くにあまりマーケットがない。
- ・家に青大将がすぐきちやう。
- ・双葉町のともだちは話しやすい。
- ・桜の木がきれい。
- ・カチューシャしてるとかわいいと双葉町では言われたのに、騎西ではかっこつけてると言われる。
- ・良いことを言うと騎西では“自慢？”って言われちやう。
- ・発音が違う。
- ・双葉町は過ごしやすい。
- ・海がきれい。
- ・前田の大杉は樹齢千二百年。

- ▲フリートーク:双葉町の方がいい、同じことでもとらえ方が違う。

11月24日 3年生男女

- ▲テーマトーク:双葉町の学校について

- ・第1校庭と第2校庭があった。
- ・騎西の体育館より大きい。
- ・学校を出るとすぐに木や花が見えて、坂を下る。
- ・双葉町の学校の先生は怖くても優しい。悪いことをすると怒るけど、優しく叱る。
- ・ともだちは優しく怒ったりしない。
- ・下駄箱があった。購買があった。縄跳びが買える。
- ・先生がしっかり叱ってくれた。
- ・給食を残しても叱られなかった。半分だけって言われた。
- ・先生は優しいけど、怒ると恐かった。

- ▲フリートーク:・騎西でなかなかともだちができなかった、生まれが一緒だから双葉町は違う、双葉町では一日でともだちができた。

11月28日 5年生男女

- ▲テーマトーク:避難について

- ・双葉町の学校→公民館→川俣→埼玉
- ・双葉町→三春→東京→埼玉
- ・小学校→中学校→川俣→埼玉スーパーアリーナ→騎西
- ・南小→北小→川俣→仙台→埼玉スーパーアリーナ
- ・南小→中学校→神奈川→埼玉スーパーアリーナ

▲フリートーク:・原発がなくなってほしい、双葉町のともだちに会いたい、おばあちゃんちの梅が食べられない、どうして双葉町に原発を立てたのか、学校に行って置いてきたものを取ってきたい、大人になったら一時帰宅をしておもちゃを取ってきたい

12月1日 6年生男女

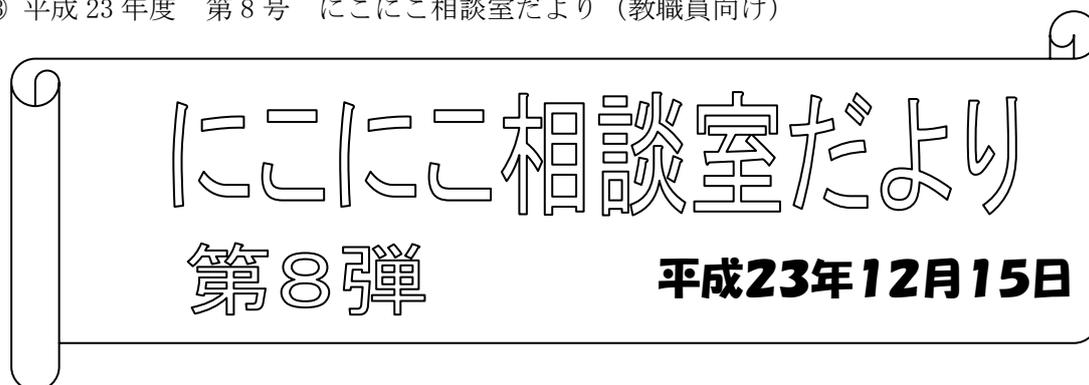
▲テーマトーク:双葉町の良いところについて

- ・海がきれい
- ・山がきれい
- ・お店がいっぱいある
- ・2つの学校がある

▲フリートーク:・北小には、ブラスバンド、空き缶ザウルス、英語クラブ、みどりの少年団。南小には、合唱部、英語クラブ、きおと作のぐるぐるがある

いろんな双葉町のことを話す子どもたちの表情は生き生きとしています。どのお話も大切な内容で、ほかの子につられるように次々に話が出てくることがあります。にこにこ相談室では、双葉町の子どもたちが安心して話せる場を作っていきたいと思っています。

スクールカウンセラーより。



(1) 第 2 回のテーマ:

ぽかぽか言葉とチクチク言葉～より深い理解とその効果の真髄～

騎西小学校で日々実践されているぽかぽか言葉とチクチク言葉ですが、実はその意味はとても深く、また子どもだけでなく大人にとってもその実践は
困難を極めるものだったので…

＜まずは心理学的に分析してみます＞

ぽかぽか言葉とチクチク言葉は、実は「ストローク」という理論的な背景を持っています。

ストロークとは…？

⇒人間同士が交流する時の、相手に対する投げかけのことです。人と関わる時の言葉や態度の総称です。

- 種類**
- ① スキンシップ(抱きしめる、手を握る、なでる)
 - ② 言語(あいさつ、話しかける、ほめる、励ます)
 - ③ 非言語(うなづく、ほほえみかける、視線をかわす、話を聴く)

ストロークはプラス/マイナスの 2 種類あります(ぽかぽかとチクチクに対応)

	プラスのストローク 相手や自分の自信につながります	マイナスのストローク 相手の自信を奪い取ります
言葉	あなたが人から言われてうれしい言葉 相手の存在を認める言葉 ★たとえば… 「おはよう」とあいさつする 「ありがとう」と感謝する 「一緒にいて楽しい」と伝える 「すごいね!」とほめる 相手の良いところを見つけて伝える	言われると心が痛くなる言葉 相手の存在を否定する言葉 ★たとえば… 怒る・注意する・悪口や文句を言う 一方的に責める・「キモイ・ウザイ」 (どうしても「ここを直して欲しい」という注意や怒る気持ちを相手に伝えるときには、一方的ではなく、きちんとその理由を

		つける必要があります。)
態度	<p>あなたが人からされてうれしいこと 相手の存在を認める態度</p> <p>★たとえば… 話をよくきく・ニコニコ笑いかける 相手の話になぜか・話しかける</p>	<p>これをされると、心や体が痛くなること 相手の存在を否定する態度</p> <p>★たとえば… たたく・大きな声でどなる・避ける 無視する (←一番マイナスのストローク)</p>

【プラスのストロークの効果(その1):ストロークバンク】

プラスのストロークが蓄積 ⇒他人に対してもプラスのストロークを発すること可能

マイナスのストロークが蓄積 ⇒他人に対してマイナスのストロークを発し易くなる

e. g.) いわゆる「寂しい人(困った人)」は、人の気をひこうと奇異な行動をとったり、気を引くためにいじわるをしたりする

【プラスのストロークの効果(その2):ストロークリザーブ(人間関係の貯金と負債)】

普段から相手にプラスのストロークを出していて、相手の心にプラスが貯まっていると、少々失敗をしても許してもらえる。逆にマイナスを貯めていると、大したことのない失敗でも、まるで鬼の首をとったかのように責め立てられる。

e. g.) 普段から好かれている人とのアポイントメントに遅刻したとしても、笑って許してもらえる。同じ失敗を、憎たらしく思われている人がやると、ここぞとばかり攻撃される

さらに！実は、それぞれのストロークは条件がつくかどうかで2つに分けられます。

条件付きのプラスのストローク	「私の言うとおりにしてくれたから、仲良くしてあげるわ」「おれの意見に反対しないから、いい人だ」「勉強ができるから、大事にしてあげる」「運動神経がいいから、好きだ」 ※しつけの際に、無意識に使用されることが多い
条件なしのプラスのストローク	「あなたは大切な人よ」「一緒にいよう」「大事だよ」「これからも仲良くしようね」「いてくれるだけでうれしい」「〇〇さんと話していると、楽しい」「ありがとう」、あいさつする
条件付きのマイナスのストローク	「言ったことをやってくれないから、イヤな奴だな」「うそをつくから大嫌い」「そんなこともできないなんて、最低だな」「私の意見にさからうなんて、生意気よ」
条件なしのマイナスのストローク	「あっちいけよ」「近くにこないで」「存在自体がイヤ」「ウザイ」「キモイ」「あなたって本当にムカつく!」「大嫌い」、無視する

【条件の有無によるストロークの4大法則】

- ① 条件なしのプラスのストロークをもらおうと、素直に受け取れないこともあるけれど、もらった側のところはあたたかくなる。大人ほど条件なしのプラスの

トロークは意識しないと発しにくい。

- ② ストロークが何もないことに人間は耐えられないため、プラスのストロークが少ない人は、知らないうちにマイナスのストロークを求めてしまう（プラスがないのならせめてマイナスでもいいから欲しい！というところの自然な欲求が働く）。しかし、結局ところに満たされなさは残る。
- ③ たとえプラスのストロークでも、条件付きのプラスのストロークばかりもらっていると、人はマイナスのストロークを求め始める。本当は条件なしのプラスのストロークが欲しいが、もらいなれていない人は条件なしのプラスのストロークを自分がもらえるということに自信がもてない。マイナスのストロークを求めることは、条件なしのプラスのストロークがもらえるまで続く。条件なしのプラスのストロークをもらい続けると、「誰が何と言おうと、私／ぼくは大事な存在なんだ！」と自分で自分に対してプラスのストロークを発することができる。
- ④ ストロークは銀行と同じで、プラスを相手に与えてばかりいると、そのうち『預金』が底をつく。

☆ストローク論を踏まえて…人と上手くやっていくための4つの言葉☆

1. ほめる

相手が自分の期待通りのことをしていなくても、いてくれることそのものをほめる！
「大切だよ」「いてくれてよかった」

2. かばう

何かがあったとき、すべてを相手のせいだけにしない！
「(そんなことするなんて) よほどのことがあったんだね」「(そうしなかったのは) 何か理由があったんだ」

3. あやまる

少しでも自分の失敗した部分があったなら、それをみとめてあやまろう！
「さっきはごめんなさい」「こ

4. お礼を言う

小さなことでもきちんとお礼を言おう！
「おかげで助かったよ」「ありがとう」

(3)勤務日一覧(太字で白マスの日程が勤務日です)

※現時点での予定です.変更の際は事前にご連絡いたします

12月の勤務日

月	火	水	木	金
			1 (竹川・都丸)	2
5	6	7 (都丸)	8 (竹川・都丸)	9
12	13	14	15 (竹川)	16
19 (竹川)	20	21 (都丸)	22 (竹川)	23
26	27 (竹川・都丸)	28		

1月の勤務日

月	火	水	木	金
2	3	4	5 (竹川)	6
9	10	11	12 (竹川・都丸)	13
16	17	18 (都丸)	19 (竹川・都丸)	20
23 (竹川)	24	25 (都丸)	26 (竹川・都丸)	27
30 (竹川)	31			

竹川 月曜と木曜 都丸 水曜(9時半~16時半)と 木曜日(12時半~4時半)

にこにこ相談室 グループワーク

にこにこふたばの会

先生方にご協力をいただいている双葉町の児童を対象としたグループワーク“にこにこふたばの会”ですが、おかげさまで全学年無事に1回目を終えることができました。こんな話が出ています。

10月22日 2年生男女

▲テーマトーク:双葉町はどんなところ

- ・楽しかった
- ・嬉しかった
- ・田舎でした
- ・信号がいっぱいあります
- ・広がった

▲フリートーク

海のこと、駅のこと、竹馬のこと、地震のこと、山のこと、置いてきたおもちゃのこと、DSのこと、帰れない、帰りたい

10月27日 1年生男女

▲テーマトーク:双葉町の思い出

- ・おとうさんがやっていたトラクター
- ・おとうさんとキャッチボールをしたこと
- ・ようちえんでともだちと遊んだこと
- ・休みの日、晴れたときに、おじいちゃんと田んぼを見に行ったこと
- ・犬と一緒に散歩をしたこと

▲フリートーク

幼稚園で遊んだ様子、保育園で卒業制作の大きな絵を描いたこと、絵はそのまま置いてあること

11月10日 4年生男子

▲テーマトーク:双葉町の良いところ

- ・自転車で坂を下るのが楽だ。
- ・坂を車で上がるときなかなか進まない。
- ・近くの山でおとうさんが木を集めてきた。
- ・坂を下りると田んぼで囲まれていて、3時にはぜんまいをゆでて食べた。
- ・食べられる草があって、あけびも食べた。
- ・山の近くには自然がたくさんあった。

- ・坂が凍る。
- ・田んぼに友達が遊びに来て、ザリガニを取った。
- ・家の近くの橋の下には秘密基地があった。
- ・自然はいいけど、ありすぎると恐いこともある。イノシシもいた。

▲フリートーク

大熊町のラーメン屋さんで晩ごはんを食べたこと、森に行くルートのこと、木を取ったりして、何かないかを探していたこと、自然に囲まれていたこと

11月17日 4年生女子

▲テーマトーク:双葉町の良いところと悪いところ

- ・双葉町は近くにあまりマーケットがない。
- ・家に青大将がすぐきちやう。
- ・双葉町のともだちは話しやすい。
- ・桜の木がきれい。
- ・カチューシャしてるとかわいいと双葉町では言われたのに、騎西ではかっこつけてると言われる。
- ・良いことを言うと騎西では“自慢？”って言われちやう。
- ・発音が違う。
- ・双葉町は過ごしやすい。
- ・海がきれい。
- ・前田の大杉は樹齢千二百年。

▲フリートーク

- ・双葉町の方がいい、同じことでもとらえ方が違う。

11月24日 3年生男女

▲テーマトーク:双葉町の学校について

- ・第1校庭と第2校庭があった。
- ・騎西の体育館より大きい。
- ・学校を出るとすぐに木や花が見えて、坂を下る。
- ・双葉町の学校の先生は怖くても優しい。悪いことをすると怒るけど、優しく叱る。
- ・ともだちは優しく怒ったりしない。
- ・下駄箱があった。購買があった。縄跳びが買える。
- ・先生がしっかり叱ってくれた。
- ・給食を残しても叱られなかった。半分だけって言われた。
- ・先生は優しいけど、怒ると恐かった。

▲フリートーク

- ・騎西でなかなかともだちができなかった、生まれが一緒だから双葉町は違う、双葉町では一日でともだちができた。

11月28日 5年生男女

▲テーマトーク:避難について

- ・双葉町の学校→公民館→川俣→埼玉
- ・双葉町→三春→東京→埼玉
- ・小学校→中学校→川俣→埼玉スーパーアリーナ→騎西
- ・南小→北小→川俣→仙台→埼玉スーパーアリーナ
- ・南小→中学校→神奈川→埼玉スーパーアリーナ

▲フリートーク

- ・原発がなくなってほしい、双葉町のともだちに会いたい、おばあちゃんちの梅が食べられない、どうして双葉町に原発を立てたのか、学校に行って置いてきたものを取ってきたい、大人になったら一時帰宅をしておもちゃを取ってきたい

12月1日 6年生男女

▲テーマトーク:双葉町の良いところについて

- ・海がきれい
- ・山がきれい
- ・お店がいっぱいある
- ・2つの学校がある

▲フリートーク

- ・北小には、ブラスバンド、空き缶ザウルス、英語クラブ、みどりの少年団。南小には、合唱部、英語クラブ、清戸迫のぐるぐる(古墳)がある

にこにこ相談室だより

第9弾 平成24年1月

新しい年:

新しい年が始まりました。本年も“にこにこ相談室”をどうかよろしくお願いいたします。3学期も昨年同様、都丸スクールカウンセラーと竹川スクールカウンセラーで力を合わせて、先生方や子どもたち、保護者の方々の相談活動を進めていきたいと思っています。

これまで: 1学期～夏休みの間、双葉町の子どもたちに面接を2回行いました。その結果として、1回目は、震災の影響や避難生活の不安、学校生活の戸惑いなどが多く語られました。2回目は、不安や戸惑いは軽減したようで、双葉町のことや双葉町への思いを話す内容が増えました。

そして: 10月の終わりから新しい活動を始めています。それは、双葉町の子どもたちを中心とした“にこにこふたばの会”というグループワークです。おかげさまで、1年生から6年生まで行い、6年生は2回実施することができています。双葉町のことについて、遊んだこと・街並みの様子・学校のこと・名所旧跡・文化の違いなど、たくさんの貴重なお話が語られています。

3学期も、放課後、各学年4、5名ずつ集まっていただき、双葉町のことを心置きなく語れるグループワークを行っていききたいと思います。

さらに: 双葉町の子どもたちに3回目の面接を行いたいと考えています。ある程度時間が経過した中で、子どもたちのこころや身体にどのような変化があったかを知りたいというのが目的です。

おねがい:

3回目の双葉町の子どもたちの個別面接について、なるべく授業に差し障りのない形で、担任の先生方にご協力をお願いすることになりますが、どうかよろしくお願いいたします。2月中には終了したいと考えています。

ひきつづき: にこにこ相談室では、あらゆる相談をお待ちしています。主に水曜日と木曜日は都丸スクールカウンセラーが担当し、月曜日と木曜日は竹川スクールカウンセラーが担当します。

4-2. 平成 24 年度

⑮平成 24 年度 第 1 号 にこにこ相談室だより (教職員向け)

騎西小学校 そうだんしつ
相談室だより

2012 年 9 月 第 1 号
だより

にこにこ😊 便り

先生版

ごあいさつ

加須市スクールカウンセラー(以下 SC)の竹川佳津子です。1学期は前年度に比べて騎西小学校に勤務する時間が少なくなってしまう、大変申し訳ございませんでした。2学期と3学期は合計 10 回、“被災児童に係るスクールカウンセラー”として勤務することになりました。そのほか、基本的に放課後 3 時以降、騎西小学校に勤務できることが決まりました。騎西小学校は、市内で唯一相談室のある小学校です。SC としましても、2学期から、気持ちを引き締めて、騎西小学校での取り組みをじっくり行っていきたいと考えています。“被災児童に係る”との名称になっていますが、広く騎西小の学区の方全員が対象といたしますのでどうかご活用ください。

活動内容について

以下のような活動をさせていただきたいと思います。

- ・児童、保護者、先生方の相談
- ・気になる児童の見立て、対処方法の検討
- ・行動化が目立つ児童に気持ちを落ち着かせる場所の提供

そのほかに被災児童への取り組みとして

- ・双葉町の児童の個別面接(ひとりずつ心配なことがないかどうか質問)
のちほど授業に差しさわりのない範囲で、面接を行いたいと思います。
- ・双葉町の児童のグループワーク(放課後学年別の小グループで“双葉町のことを話す会”を実施)
放課後の時間に、学年、学級、男女別に実施致します。

担任の先生にその都度お願いいたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今後の予定

9月の勤務日

月	火	水	木	金
3	4 勤務(放)	5	6 勤務(放)	7
10 勤務(放)	11	12	13 勤務(放)	14
17	18	19	20 勤務(放)	21
24 勤務(放)	25 勤務(終日)	26	27 勤務(放)	28

ひと言目メモ

秋は夏から冬に向かう季節です。冬は生命にとっては、ある意味で死の方向に向かう季節です。春は芽吹きますが、秋はその反対です。人間の心もどちらかというと、エネルギーは収束方向に向かうようです。猛暑が一段落して、秋風が吹くころ、ちょっとネガティブな気持ちになったとしても、それはむしろ自然なことなのかもしれません。

にこにこ😊 便り

先生版

ごあいさつ

加須市スクールカウンセラー（以下SC）の竹川佳津子です。2学期と3学期は合計10回、“被災児童に係るスクールカウンセラー”として、勤務が増えることになりました。その日は一日中騎西小学校にすることができます。“被災児童に係る”との名称になっていますが、広く騎西小学校の方全員を対象といたしますのでどうかご活用ください。

にこにこ相談の状況について:ときどき児童が相談に来ています。

・ともだちのこと、勉強のこと、家の人のこと

先生がクラスの状態をお話ししていただきます。気になる児童が飛び込みで来室します。落ち着いて教室に戻れるようにおまじないをしています。そのほかに被災児童への取り組みとして、双葉町の児童のグループワークを行っています。

これまでは、お話し合いをしていましたが、9月から、「双葉町の絵を描こう」ということで数人で思い出しながら、一枚の絵を描いています。双葉町のことを大切に思う気持ちを形にすることは、大事なところの作業だと考えています。これはモーニングワークと言われているもので、それぞれのところの中に、対象がイメージとして納まっていくことを目標にするものです。行間休み、昼休み、放課後に行いたいと思いますので、どうぞよろしく願い申し上げます。

10月の勤務日

月	火	水	木	金
1	2 加須	3	4 加須	5
8	9 騎西1日	10	11	12
15	16	17	18 加須	14
22 加須	23	24	25 加須	26
29 加須	30 騎西1日	31		

ひと言目メモ

一日勤務の際は、先生方からもたくさんお話をうかがいたく思います。保護者の方も大歓迎です。

にこにこ😊 便り

先生版

ごあいさつ

加須市スクールカウンセラー（以下 SC）の竹川佳津子です。“被災児童に係るスクールカウンセラー”として、9 月から一日中騎西小学校に勤務することができるようになりましたこと、とてもありがたく思っております。お子さんはもちろんのこと、先生方や保護者の方に気軽にいらしていただける相談室でありたいと考えます。どうぞご活用ください。

にこにこ相談の状況について

1. 相談活動

•児童がときどき相談に来てくれます。

行間休みやお昼休みを利用して、身近な話題が中心です。

•保護者の方が来室されます。

養育について、気になる言動について、どんなことでもご相談いただいています。

•先生が気になるお子さんのことをご報告いただいています。

2. 双葉町の児童のグループワーク

主にお昼休みにクラスの数人をひとつのグループとして「双葉町の絵を描こう」という取り組みをしています。1 枚の模造紙にグループのメンバーで、学校や海や山、家や商店、公共施設や道路などを思い思いに描いています。時にはふざけて怪物や化け物を描く子もいますが、それも心の大切な表現だと思えます。先日ふと「双葉町のことを思い出すことはどれくらいある？」と聞いてみたら、大部分のお子さんが「毎日思い出さない日はない」と大きな声で答えてくれて驚きました。故郷は特別なところ。災害支援の専門家や心的外傷の研究家から、双葉町を大切に思うところの取り組みを行うことは大変意義のあることとのご意見をいただいております。モーニングワーク（こころの喪のプロセス）という観点からも続けていくことにとっても意義があると思えます。こればかりは確証はありませんが、数年先が違うと言われております。故郷が児童のこころの中に大切なイメージとして収まっていくことを目標にしたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

11月の勤務日

月	火	水	木	金
			1	2
昼休み 5	一日 6	7	昼休み 8	9
12	13	14	昼休み 15	16
昼休み 19	20	21	昼休み 22	23
昼休み 26	一日 27	28	昼休み 29	30

ひと言目メモ

最近、WISK III を取る機会が増えています。いろんな得意不得意があって驚きます。苦手面は工夫をしていくとして、得意面はどんどん伸びるといいなと思います。

にこにこ😊 便り

先生版

ごあいさつ

加須市スクールカウンセラーの竹川佳津子です。主に月曜日と木曜日のお昼休み、月に1回は一日騎西小学校に参ります。お子さんはもちろん、保護者の方や先生方もどうぞご活用ください。

児童心理一言メモ

- ① 児童期前期の発達課題：『人生への旅立ち』
 - ・ 小学校での仲間関係を中心にした世界で、親や教師と心理的な距離を見出すこと
 - ・ 勉強や学校生活を通じて客観的な認識を持つこと
 - ・ “できたー！”という体験を通して、勤勉性と劣等感に折り合いをつけること
 - ・ 汚い言葉やいたずらなどを通して「小さな悪」を共有し、仲間関係を築くこと
- ② 児童期後期の発達課題：『子ども時代の黄金期』
 - ・ 身体的発達によって自由自在に自分の体を操れるようになること
 - ・ さまざまな内的能力が向上し、自己コントロール感が生まれ、「自分」と出会うこと
 - ・ 第二次性徴の訪れによって、不安を感じ、新たな自己像の模索を始めること
 - ・ 徒党を組んで世界を拡大する一方で、「自分の城づくり」として自分の世界を豊かにすること

天真爛漫に見える子どもたちですが、こころの中にはたくさん課題の課題を抱えていますので、ちょっとしたことでバランスを崩す可能性をはらんでいます。

12月の勤務日

月	火	水	木	金
---	---	---	---	---

3	昼休み	4	5	昼休み	6	7
昼休み	10	11	12	13	14	
17	一日	18	19	昼休み	20	21
24		25	26	27	28	
31						

ひと言メモ

「発達障害は治りますか」という問いに出会います。発達障害は治るというより、“発達障害は発達する”と理解する方が相応しいように思います。発達の過程では様々なことが変化していきます。その人の特性に適応的な方向へ進んで生きていければ、障害は生涯を通して障害ではなくなります。治るかどうかという考えが治るとよいなんて思う今日この頃です。

にこにこ😊 便り

先生版

ごあいさつ

加須市スクールカウンセラーの竹川佳津子です。にこにこ相談室に、しっかりしたブルーのパーティションが入りました。よりいっそう相談室らしくなりましたので、3 学期もどうかご活用ください。

双葉町の児童の 4 回目の面接実施

これまで、平成 22 年度から平成 23 年度にかけて、個別面接を 3 回実施いたしました。また、平成 23 年度から平成 24 年度にかけて、双葉町の児童のグループワークをにこにこ相談室で行ってきました。平成 25 年度を迎えるに際し、今後の双葉町の児童へのスクールカウンセラーによる支援活動をどのようにしていくかを検討することになりました。そこで、現在の児童の状況を調査する必要があるという理由から、双葉町の児童に対して、4 回目の面接調査を行う方向で現在検討中です。どうかよろしく願い申し上げます。

1. 面接形態

個別面接とグループ面接が考えられるが、グループだと真剣な回答が得られないことが懸念されるため、個別面接を実施することになりました。

2. 実施時期

2/5, 2/26, 3/5 の 3 日間(終日)

2/7, 2/14, 2/18, 2/21, 2/25, 2/28 の 6 日間 (昼休み)

3. 質問内容

家庭生活について (現在、過去、将来)

学校生活について (現在、過去、未来)

心配なことがあったり、恐れを抱いたりしていないかどうか

⑤注意

双葉町の保護者に面接を実施することをご連絡する

心配なことがあったら家族や先生に相談するように児童に伝える

にこにこ相談室で SC が継続して対応することを児童に伝える

2月の勤務日

月	火	水	木	金
				1
昼休み 4	一日 5	6	昼休み 7	8
11	12	13	昼休み 14	15
昼休み 18	19	20	昼休み 21	22
昼休み 25	一日 26	27	昼休み 28	

にこにこ😊 便り

先生版

ごあいさつ

加須市スクールカウンセラーの竹川佳津子です。3 学期も残りわずかになって参りました。このところ、教育センターでの活動が多くなっていますが、にこにこ相談室での相談活動も引き続き行っていきたいと存じます。どうかご活用ください。

双葉町の児童への 4 回目の面接実施が終わりました

- ・先生方のご協力をいただきまして、2月5日、26日の2日間で、双葉町出身の児童46名、南相馬出身の児童1名の個別面接が終了いたしました。詳しい結果については後日ご報告いたします。
- ・面接の質問内容は、1. 家での生活について、2. 学校生活について、3. こころの状態についてです。
- ・全体像としまして、家での生活について、「加須に来たばかりの時は、不安だったが、1年後にはほぼ心配がなくなってきて、今はとても良い状態」という回答が大部分でした。学校での生活について、「騎西小学校に来たときには慣れなくて不安だった」という回答もあれば、「最初からみんなが歓迎してくれたから心配なかった」という回答もあり様々でした。しかし、今はほぼ全員が「学校生活がとても良いと思っている」と答えていました。
- ・家庭の生活について、「具体的に気になることがある」との回答は13、学校の生活について、「具体的に気になることがある」との回答は19でした。
- ・家庭や学校で双葉町や南相馬市の話をごどれくらいしているかについては、児童によって様々でした。過半数の児童が、故郷の話をする機会があることを希望し、集団で集まることを望んでいました。
- ・こころの状態については、「以前のことを繰り返し思い出す」という回答が半分強の26、「急に怖くなったり、心配になったりすることがある」という回答が半分弱の21でした。児童には、「大きな出来事を経験すると、時間が経過してから、思い出したり、急に怖くなったり、心配になったりすることはごく普通に起こる自然なこころの動き

であり、心配なことではない」と伝えました。また、ひとりで心配をしないで先生やご両親に相談することを勧めました。

3月の勤務日

月	火	水	木	金
				1
教育センター 4	1日 騎西小 5	6	教育センター7	8
午前中 11		13	教育センター14	15
教育センター28		20	教育センター21	22
教育センター25		27	教育センター28	29

4-3. 平成25年度

② 平成25年度 第1号 にこにこ相談室だより (教職員向け)

騎西小学校 そうだんしつ 相談室だより

2013年 9月 第1号
だより

にこにこ😊 便り

先生版

ごあいさつ

加須市スクールカウンセラー(以下SC)の竹川佳津子たけかわかつこと申します。平成23年度、24年度には、加須市のSCとして、また、埼玉県の被災児童に係るSCとして、騎西小学校に来校させていただいておりました。平成25年度は9月から月に1から2回程度、また、お昼休みに、被災児童に係るSCとして、騎西小学校に勤務できることになりました。“はじめまして”とご挨拶する先生と“お久しぶりです”とご挨拶する先生がいらっしゃると存じますが、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。9月から3月までの間、双葉町のお子さんの個別面接と集団面接を計画中です。また、必要に応じて、お子さんのカウンセリングや保護者のカウンセリングも行います。

“被災児童に係るSC”との名称になっていますが、騎西小学校の方が全員対象と考えております。平成23年度、2階の図書室の横に“にこにこ相談室”が創設されて以来、騎西小学校は、市内で唯一相談室のある小学校です。お子さんはもちろんのこと、先生方や保護者の方に気軽にいらしていただける相談室でありたいと考えます。どうぞご活用ください。

活動内容について

全ての方への取り組みとして

- ・児童、保護者、先生方の相談
- ・気になる児童の見立て、対処方法の検討
- ・行動化が目立つ児童に気持ちを落ち着かせる場所の提供

被災児童への取り組みとして

- ・双葉町の児童の個別面接(現在の状態や心配ごとなどを質問)
- ・双葉町の児童の集団面接(双葉町への思いや思い出を話し合う)

今後の予定案(変更になる可能性があります。変更の際は次回のお便りでお知らせします)

9月17日(火)、10月15日(火)、10月29日(火)、11月5日(火)、

11月19日(火)、12月3日(火)、12月17日(火)、1月21日(火)、
2月4日(火)、3月4日(火)、3月11日(火)

また、9月から11月初めのお昼休み

ひとことメモ

エネルギーが活性化するとき、また、エネルギーが溜まるときを感じることはありませんか。その人それぞれ“これをすれば何か良いな”“これはちょっと癖になりそう”というものがなにかあるのだと思います。不登校のお子さんや親御さんとの面接が増えてきて、その子にとって、なにかそういうものがないかなと一生懸命探しているこの頃です。「わたしはこれよ」というのがありましたら、教えてください。ちなみにわたしは泳ぐことです。

5. 個別面接の質問用紙

5-1. 平成 23 年度

① H23 年度 1 回目面接用紙（質問シート）

個人面接記録（質問シート）平成 23 年度 1 回目

記入者_____ 記入日____年____月____日

児童氏名_____ 学年_____ 組（担任名）_____

< 教示 > : 双葉町から来てしばらく時間がたちました。どれくらいたったでしょう。今まで、がんばってきたこと、工夫してきたことはありますか。反対に、がんばれないこと、ちょっとむずかしいなと思うことはありますか。楽しいこと、嬉しいことはありますか。楽しくないことやうれしくないこともありますか。毎日いろいろなことがありますね。双葉町のときと同じだとも思うかもしれないし、双葉町とはちょっと違うなと思うこともあるかもしれません。これから、そんなことについて、いくつか質問をしますので、〇さんが思ったとおり、答えてください。

1 地震についてどうですか（いつ、どこで、どんな体験 _____）

① 怖かった

ものすごく すごく すこし ない

② 繰り返し思い出す

いつも ときどき たまに ない

2 津波についてどうですか（どんなもの、どんな体験： _____）

① 怖かった

ものすごく すごく すこし ない

② 繰り返し思い出す

いつも ときどき たまに ない

3 原発についてどうですか（どんなもの： _____）

① 怖いと感じた

ものすごく すごく すこし ない

② 繰り返し気になる

ものすごく すごく すこし ない

4 身体について

双葉町のときと比べて変わったところがありますか

ない ある (どんな変化:)

例) 痛い(頭痛・腹痛)、疲れる、だるい、吐き気、めまい、尿、便、食欲、かゆい、息苦しい

5 気持ちについて

双葉町のときと比べて変わったところがありますか

ない ある (どんな変化:)

例) いらいら、腹が立つ、悲しい、さみしい、しょんぼり、びくびくする、どきどきする、涙が出る、性格の変化(おとなしい、活発、がんばる、怠ける)、考え方(信用できない、考えないようにする、自分のせいだと思う)

6 生活について

双葉町のときと比べて変わったところがありますか

ない ある (どんな変化:)

例) よく眠れない、朝起きられない、食欲がない、怖い夢を見る、できごとを急に思い出す、思い出せないことがある、元気にしようと思う、がまんしようと思う

7 双葉町との違いについて

7-1 勉強のことで困る

(科目:)

(内容:)

とてもある すこしある あまりない ぜんぜんない

7-2 学校生活で困る

(活動:)

(内容:)

とてもある すこしある あまりない ぜんぜんない

7-3 生活場所の生活で困る

(生活場所:)

(内容:)

とてもある すこしある あまりない ぜんぜんない

8 今の状態について

① ともだち いる いない 増えた 減った 変わらない

② 寝る時間 何時 ()

- ③ 起きる時間 何時 ()
- ④ 朝ごはん 何時 () 誰と() どこで ()
- ⑤ 晩ごはん 何時 () 誰と() どこで ()
- ⑥ 入浴 毎日 毎日ではない () 日に一度
- ⑦ 居心地のよいところ ない ある どこ ()
- ⑧ 今の家族 だれ ()
- ⑨ あそび なに ()

9 継続希望

にこにこ相談室で相談したいことがありますか

ない ある

()

<教示>：何か心配なことや気になることがあったら、にこにこ相談室に来てください。

② H23 年度 2 回目面接用紙（質問シート）

個人面接記録（質問シート） 平成 23 年度 2 回目

記入者 _____ 実施日 ____ 年 ____ 月 ____ 日
児童氏名 _____ 学年 _____ 組 （担任名） _____

<主訴や課題>

1. 震災への思い

- ① 地震 _____
- ② 津波 _____
- ③ 原発 _____

1. 怖れ

地震 津波 原発

4. 調子の変化

- ① 身体面 _____
- ② 心理面 _____
- ② 生活面 _____

5. 現状の問題 _____

6. 双葉町への思い

- ① 大切な友人 _____
- ② 大切なもの _____
- ③ 大切な思い出 _____
- ④ その他 _____

7. 特記事項

6. 継続希望 有 無
内容 _____

③ H23 年度 3 回目面接用紙 (質問シート)

個人面接記録 (質問シート) 平成 23 年度 3 回目

記入者 _____ 記入日 ____ 年 ____ 月 ____ 日

児童氏名 _____ 学年 _____ 組 (担任名) _____

< 教示 > : 騎西小学校で新しい年を迎えました。双葉町を出てから、春、夏、冬と過ぎました。いろいろなことがありました。

騎西小学校に来てから、にこにこ相談室で、今まで 2 回、質問に答えてもらいました。3 学期になったので、もう 1 度、どんな様子かを教えていただきたいと思います。今の状態や今の気持ちについて、〇〇さんが思うとおりに答えてください。

1 地震についてどうですか (いつ、どこで、どんな体験: _____)

① 今も怖い

ものすごく すごく すこし ない

② 繰り返し思い出す

いつも ときどき たまに ない

2 津波についてどうですか (どんなもの、どんな体験: _____)

① 今も怖い

ものすごく すごく すこし ない

② 繰り返し思い出す

いつも ときどき たまに ない

3 原発についてどうですか (どんなもの: _____)

① 怖いと感じる

ものすごく すごく すこし ない

② 繰り返し気になる

ものすごく すごく すこし ない

4 身体について

双葉町のときと比べて変わったところがありますか

ない ある (どんな変化: _____)

例) 痛い (頭痛・腹痛)、疲れる、だるい、吐き気、めまい、尿、便、食欲、かゆい、息苦しい

5 気持ちについて

双葉町のときと比べて変わったところがありますか

ない ある (どんな変化:)

例) いらいら、腹が立つ、悲しい、さみしい、しょんぼり、びくびくする、どきどきする、涙が出る、性格の変化 (おとなしい、活発、がんばる、怠ける)、考え方 (信用できない、考えないようにする、自分のせいだと思う)

6 生活について

双葉町のときと比べて変わったところがありますか

ない ある (どんな変化:)

例) よく眠れない、朝起きられない、食欲がない、怖い夢を見る、できごとを急に思い出す、思い出せないことがある、元気にしようと思う、がまんしようと思う

7 双葉町との違いについて

7-1 勉強のことで困る

(科目:)

(内容:)

とてもある すこしある あまりない ぜんぜんない

7-2 学校生活で困る

(活動:)

(内容:)

とてもある すこしある あまりない ぜんぜんない

7-3 生活場所の生活で困る

(生活場所:)

(内容:)

とてもある すこしある あまりない ぜんぜんない

8 今の状態について

① ともだち いる いない 増えた 減った 変わらない

② 寝る時間 何時 ()

③ 起きる時間 何時 ()

④ 朝ごはん 何時 () 誰と () どこで ()

⑤ 晩ごはん 何時 () 誰と () どこで ()

⑥ 入浴 毎日 毎日ではない () 日に一度

⑦ 居心地のよいところ ない ある どこ ()

⑧ 今の家族 だれ ()

5-2. 平成 24 年度

④ H23 年度 3 回目面接用紙 (質問シート)

個人面接記録 (質問シート) 平成 24 年度

記入者 _____ 記入日 ____ 年 ____ 月 ____ 日

児童氏名 _____ 学年 _____ 組 (担任名) _____

< 教示 > : 双葉町から加須市に移ってきて、騎西小学校に来てから、いろいろなことがありましたか。今も毎日いろいろなことがあるでしょう。これからもきっといろいろなことがあるでしょう。もうすぐ 2 回目の 3.11 の集会がありません。今までにここに相談室でお話をしたり絵を描いたりしてきましたが、しばらく時間が過ぎましたので、双葉町から来た皆さんがこの頃どんな様子なのかを教えてくださいたいと思います。いくつか質問をしますので、〇〇さんが思うとおりに答えてください。話した内容は内緒にしたいと思います。

1 家での生活について

① 家族は誰が一緒ですか。

(

)

② 家で双葉町のことを話すことがありますか。

たくさん ときどき あまりしない しない

③ 今家で過ごしているとき、どんなふうですか。

とても満足 (安心) 満足 (安心) ちょっと不安 とても不満 (不安)

④ 加須に来たばかりのときは、どうでしたか。

とても満足 (安心) 満足 (安心) ちょっと不安 とても不満 (不安)

⑤ 1 年前は、どうでしたか。

とても満足 (安心) 満足 (安心) ちょっと不安 とても不満 (不安)

⑥ この先、家での生活について気になることはありますか

ない ある

(

)

2 学校での生活について

① 学校で双葉町のことを話すことがありますか。

たくさん ときどき あまりしない しない

② 双葉町のことを双葉町の子どもで話す機会があった方が良いですか。

なくていい あったほうがいい (集団 ・ 個別)

③ 今学校で過ごしているとき、どんなふうですか。

とても満足(慣れた) 満足(慣れた) ちょっと不満(慣れない) 不満(慣れない)

⑤ 1年前は、どうでしたか。

とても満足(慣れた) 満足(慣れた) ちょっと不満(慣れない) 不満(慣れない)

⑥ これからの学校での生活について気になることはありますか。

ない ある

()

3. フラッシュバックについて

① 以前のことに何かを繰り返し思い出すことはありますか。

ない ある

()

② 急に怖くなったり、心配になったりすることはありますか。

ない ある

()

<教示>急に思い出して怖くなることは、大きな出来事があった後、時間が経ってから、ときどき起きることですから、心配はありません。そんなときは、自分のこころの中だけで思っていないで、周囲の大人に伝えてください。家族でも双葉町の小学校の先生でも騎西小学校の先生でもスクールカウンセラーでもだいじょうぶです。

5-3. 平成 25 年度

⑤ H25 年度面接用紙（質問シート）

個人面接記録（質問シート）平成 25 年度

記入者_____ 記入日____年____月____日

児童氏名_____ 学年_____組（担任名）_____

< 教示 > : 双葉町から加須市の騎西小学校に来て、3 年目になりました。今まで何度か皆さんの様子を質問してきました。しばらく時間が過ぎましたので、双葉町から来た皆さんがこの頃どんな様子なのかを教えてくださいたいと思います。いくつか質問をしますので、〇〇さんが思うとおりに教えてください。

1 地震についてどうですか（いつ、どこで、どんな体験：_____）

① 今も怖い

ものすごく すごく すこし ない

② 繰り返し思い出す

いつも ときどき たまに ない

2 津波についてどうですか（どんなもの、どんな体験：_____）

① 今も怖い

ものすごく すごく すこし ない

② 繰り返し思い出す

いつも ときどき たまに ない

3 原発についてどうですか（どんなものの：_____）

① 怖いと感じる

ものすごく すごく すこし ない

② 繰り返し気になる

ものすごく すごく すこし ない

4 家での生活について

① 家で過ごしているとき、どんなふうですか。

とても満足（安心） 満足（安心） ちょっと不満 とても不満（不安）

② これからの家での生活について気になることはありますか

ない ある

(_____)

2 学校での生活について

① 学校で過ごしているとき、どんなふうですか。

とても満足(慣れた) 満足(慣れた) ちょっと不満(慣れない) とても不満(慣れない)

② これからの学校での生活について気になることはありますか。

ない ある

()

3. からだや気持ちの変化について

① からだについて双葉町の時と比べて変わったところがありますか。

ない ある (どんな変化)

② 気持ちについて双葉町の時と比べて変わったところがありますか。

ない ある (どんな変化)

4. フラッシュバックについて

① 以前のことにについて何かを繰り返し思い出すことはありますか。

ない ある

()

② 急に怖くなったり、心配になったりすることはありますか。

ない ある

()

5. 将来のことについて

① 大きくなったら、どこでなにをしていたいですか。

どこで ()

なにを ()

6. 双葉町のことにについて

① 双葉町のことを思いますか

とてもよく思う ときどき思う あまり思わない 全然思わない

② 双葉町ってどんなところ？

()

③ 双葉町の友だちといえば？

()

④ 双葉町から一緒の友だちと騎西の友だちは違いますか

いいえ はい

()

⑤ 双葉町にあるものは何？

()

⑥ 双葉町の思い出といえば？

()

8. 双葉町の小学校の先生について

① 双葉町の小学校の先生が今までいつも騎西小学校にいたことを知っていますか。

知らない 知っている

② 双葉町の小学校の先生がいてくれてよかったと思うことがありますか。

ない ある

()

③ 双葉町の小学校の先生へひとことメッセージ

()

8. SCについて

① グループワークをまたしたいですか。

しない したい

()

9. 継続希望

にこここ相談室で相談したいことがありますか

ない ある

()

<教示>：何か心配なことや気になることがあったら、にこここ相談室に来てください。

6. 各学会の発表資料

① 心理臨床学会第31回大会発表原稿（平成24年9月12日 於 愛知学院大学）

東日本大震災による避難児童へのスクールカウンセラーの取り組み(1)

—個別面接から見た児童の状態とその変容—

都丸けい子(平成国際大学) 竹川佳津子(東京国際大学)

1 目的

東日本大震災による原子力発電所事故の影響を受けたA町は、B県に集団で避難することになり、避難児童105名がC小学校へ転入した。筆者らはスクールカウンセラー（以下、SC）としてC小学校で避難児童のこころのケアに携わり、その取り組みのひとつとして、継続的な面接を実施した。本発表では、1学期（5～7月）と3学期（1～2月）の面接結果について分析し、それぞれの時期の児童の状態とその変容について量的側面から検討する。

2 方法

[手続き]A町教育委員会とC小学校の市の教育委員会、C小学校に派遣されたA町立小学校の教頭と教員の要請を受け、C小学校の校長、教頭、教員、および避難児童の保護者の許可を得たうえで、SCによる避難児童への個別面接（半構造化面接）の実施が決定した。面接の質問項目は、過去の被災による避難児童についての報告を参考にし、主にA町立小学校の教頭と教員、SCで決定した。結果は、教員と家庭へ向けたお便りにより報告された。**[対象者]**C小学校に転校してきたA町立小学校の避難児童。大量転入から五月雨式の転出が起きたため、転入105人（男児60人、女児45人）の内、1学期の面接対象者は85名（男児49名、女児36名）、3学期は58名（男児32名、女児26名）。またその内、「行動面および情緒面に関して教員からSCに相談があった／何らかの問題を抱えSCと関わりを有した児童」を気になる児童とした（1学期21名、3学期18名）。**[面接時期]**1学期（5～7月）、3学期（1～2月）。**[面接時間]**授業時間、休み時間、放課後。児童一人当たり約15～20分。**[面接場所]**C小学校相談室**[質問項目]**地震の怖さ・想起、津波の怖さ・想起、原発の怖さ・想起、身体・気持ち・生活の変化、勉強・学校生活・生活場所の困難（12項目4件法）／友人の状態、居場所、相談希望（3項目2件法）。なお、各質問項目のあとにその質問内容にする事柄について適宜尋ねた。

3 結果

(1) 1学期の面接：性別、学年（低・中・高）、気になる児童（該当・非該当）について差を検討した。その結果、学年および気になる児童に有意な差異が認められた。具体的には、地震の怖さ、生活の変化、勉強の困難、学校生活の困難（低<中： $F(2, 80)=3.83, p<.05$ ； $F(2, 81)=3.73, p<.05$ ； $F(2, 82)=4.21,$

$p<.05$ ； $\chi^2(1)=7.00, p<.05$ ）、地震の想起（低<中・高； $F(2, 81)=8.05, p<.01$ ）、津波想起（気になる児童<非該当； $t(45)=$

$-3.13, p<.01$ ）、身体の変化（気になる児童>非該当； $\chi^2(1)=6.01, p<.05$ ）であった。

(2) 3学期の面接：(1)と同様に検討した結果、性別および学年に有意な差が認められた。具体的には、地震の怖さ（男児<女児； $t(55)=-2.66, p<.05$ ）、生活場所の困難（低<高； $F(2, 55)=5.03, p<.05$ ）、生活の変化（低<中； $\chi^2(1)=6.63, p<.05$ ）であった。また、気になる児童には、身体の変化（気になる児童>非該当； $\chi^2(1)=3.44, p<.10$ ）に関して有意傾向が認められた。

(3) 1学期と3学期の面接の変化：58名に関し、各自の1、3学期のデータを対応させ差異を検討した。さらに学年、性別および気になる児童についても検討を行った。その結果、全体、性別に関して有意な差異が、また気になる児童に関して有意傾向が示された。

[全体] 生活の変化（1>3学期；「ある」83.8→50%， $p<.10$ ）、学校生活の困難（1>3学期； $t(57)=2.15, p<.05$ ）。**[男児]** 地震の怖さ、原発の怖さ、原発想起、気持ちの変化（1>3学期； $t(31)=2.08, p<.05$ ； $t(30)=2.15, p<.05$ ； $t(30)=2.33, p<.05$ ；「ある」87.5→56.3%， $p<.10$ ）。**[女児]** 学校生活の困難（1>3学期； $t(25)=2.16, p<.05$ ）**[気になる児童（該当）]** 津波想起（1<3学期； $t(14)=-1.95, p<.10$ ）。**[気になる児童（非該当）]** 原発心配、学校生活の困難（1>3学期； $t(36)=1.98, p<.10$ ； $t(39)=1.92, p<.10$ ）

4 考察

(1) 全体的な傾向：対象児童のほとんどは、A県から様々な経路を経てB県避難所へ転居した。C小学校転校後、児童の83%がさらに避難場所以外へ生活の場所を変えているが、全体的には新しい土地での生活や転校先の学校への適応が徐々になされていることがわかる。その背景として、時間の経過による回復と同時に、周囲の環境が適応を促進する関わりをしたこ

とも可能性として考えられるだろう。

(2) 学年 (発達段階) : 本結果からは低学年は被災の影響が小さいような印象を受ける。しかし、自由回答部分では影響を強く受けている発言が認められた。面接者は面接にあたり非言語による問いかけを多く用いたが、本研究の方法論的な限界として、低学年の児童は気持ちを自覚的・数量的に検討し判断することが困難な可能性が挙げられる。

(3) 性別 : 時間の経過による変化の質の相違が示された。男児は過去の経験への意味づけの変容 (内的な適応) が認められ、女児は外的な環境との関係づけの変容 (外的な適応) が認められた。

(4) 気になる児童 : 気になる児童以外の児童には、原発への心配や学校生活の困難感が低下する傾向が認められるなど、時

間と共に漸次的に適応が促されていく一端が示された。しかし、気になる児童に関しては、年間を通して身体表出が示されやすく、また津波の想起が1学期に比べ3学期は想起されやすくなるなど、独特な認知を有している。このことから、気になる行動を示す児童は特に、危機的な出来事を経験したことによるストレスの影響が長期にわたって身体に表現されやすいことを念頭に置き、個々の認知の特徴に配慮した丁寧な観察、および継続的な支援を行っていく必要があるだろう。

*キーワード 東日本大震災 避難児童 スクールカウンセラー

*タケカワカツコ、トマルケイコ

② 日本心理臨床学会第31回大会発表原稿（平成24年9月12日 於 愛知学院大学）

東日本大震災による避難児童へのスクールカウンセラーの取り組み(2)

—個別面接から見た児童の状態とその変容—

竹川佳津子(東京国際大学) 都丸けい子(平成国際大学)

1 目的

東日本大震災による原子力発電所事故の影響を受けたA町は、B県に集団で避難することになり、避難児童105名がC小学校へ転入した。筆者らはスクールカウンセラー(以下、SC)としてC小学校で避難児童のこころのケアに携わり、その取り組みの一つとして継続的な面接を実施した。本発表では1学期と3学期の面接を分析し、それぞれの時期の児童の状態とその変容について質的側面から検討する。

2 方法

[手続き]面接に当たって以下の点に配慮した。実施前にA町立小学校の教頭・教員と話し合い、同居の家族に死傷者がいないこと、また地震や津波の体験のトラウマ性が低いことの実事確認を行った。さらに、面接事前事後に避難児童の保護者に文章を配布し、説明・報告した。また、面接終了後SCはA町の教頭・教員に即日結果報告を行った。**[対象者]**C小学校に転校してきたA町立小学校の避難児童で、1学期、3学期両方の面接経験者58名。**[面接時期]**1学期(5~7月)、3学期(1~2月)。**[面接時間]**授業時間、休み時間、放課後。一人当たり1学期15~20分。3学期10分程度。**[面接場所]**C小学校相談室**[質問項目]**地震の怖さ・想起、津波の怖さ・想起、原発の怖さ・想起、身体・気持ち・生活の変化について4件法で回答を求めた後、その質問内容に関して自由な語りを促した。具体的には「地震/津波/原発についてはどうですか」、「(身体/気持ち/生活の中での変化はありますか)に「ある」と答えた場合)「どんな変化ですか」である。

3 結果

語られた内容を質問項目ごとにKJ法を用いて検討した。以下、主に学年(低・中・高)に焦点を当て、頻出度および特徴を記載する。

(1) 1学期の面接：**[地震]**地震発生時の場所や行動の語りが低・中・高で上位を占め、次点に「怖さ」「様子」が続く。**[津波]**低・中では目撃の有無、また説明の語りが上位を占める。一方、高では自宅や親戚宅への被害や怖さの語りが上位である。**[原発]**どの学年も「癌や放射能や毒との関連づけ」が多く「わからない」は学年が進むと減少、「怖い」は増加する。**[身体]**どの学年も「疲れる」や痛み

の語りが多い。高では1回答のみが11項目である。**[気持ち]**低・中では「さみしい」、高では「イライラ」「腹立ち」が増え、内容が多様になる。**[生活]**「元気でいよう・我慢・怖い夢・思い出す・眠れない」が上位を占める。

(2) 3学期の面接：**[地震]**上位に関し、低・高では「怖かった」「揺れた」の順、中ではその逆であった。震災発生時の場所や行動についてほとんど語られない。**[津波]**全体的に津波を説明する語りが上位。**[原発]**「放射能」への言及が増え、特に中・高で上位を占めている。**[身体]**複数回答は低の「以前より調子が良い」、中の「身体が大きくなった・疲れる」の2つ。他は1回答のみが多数を占める。**[気持ち]**各項目の回答頻度が少なく(4~1)、「悲しい・さみしい」一方で、「うれ

しい・楽しい・ほっとする」回答も得た。**[生活]**回答数はいずれも5以下である。全学年で「怖い夢を見る」が上位を占める。

4 考察

(1) 1学期の面接：**[地震]**体験、怖さや様子を詳細に回答する傾向は、震災後比較的早い時期であったためであろう。**[津波]**学年の低い児童ほどどんなものかを説明する傾向であるのは、津波をテレビや人づてに見聞きし、低年齢であるゆえにその迫力に圧倒された可能性がある。**[原発]**児童なりに原発を癌や放射能や毒と関連づけて理解し、学年が上がると知識が増え「わからない」は減少する。**[身体]**子どもたちは全体的に疲れを感じている。高学年になると独自の調子の悪さを述べる能力が育つ。**[気持ち]**学年が上がると「さみしい」「悲しい」状況に対して腹立ちや「イライラ」を覚える。豊かに感情が表現できるので1児童当たりの回答数が増える。**[生活]**学年を問わずストレス反応を生活の中で経験している。

(2) 3学期の面接：

[地震]体験の詳細な語りは激減し、感情や感想を一つの短い言葉で回答するようになった。**[津波]**津波について客観的に理解している回答が目立つ。これは、直接体験していないこと、海から遠く離れて生活をしていること、さらに時間の経過が関与していると推察される。**[原発]**放射能という言葉を使った回答の増加は、この時期の世論を反映している可能性が高い。**[身体]**1学期に多かった疲れやだるさの訴えは減少し、ポジティブな変化についての回答が目立つ。その背景には慣れによる適応等、時間の経過による回復が考えられる。**[気持ち]**「悲しい・さみしい」訴えが

減り、ポジティブな回答も増え、身体と同様の変化が認められる。**【生活】**回答数が減少し、出来事を急に思い出すという回答はなくなり、生活への適応が徐々に進んでいると考えられる。しかし「怖い夢を見る」の回答数は1学期と比べて漸減に留まり、依然全体的に上位を占めている。このことより、気持ちの深い部分への被災と避難による影響が心配される。

(3) 性別および気になる児童に認められた特徴的な語り：**【性別】**男児に、地震や津波や原発を「面白い・笑った・へっちゃら」といった深刻さを欠くような言葉での回答が見られ、これは女兒にはない傾向である。**【気になる児童】**1学期には全体的に1人当たりの語られた項目数が複数に

わたることが多かったが、3学期には大半の児童において語りの量および語られる項目数が減少した。しかし、気になる児童に関しては、3学期の面接時も1学期と同じように多くの言葉で複数回答し、まるで昨日のことにリアルに話す傾向が認められた。

以上より、被災児童への取り組みには、時期、発達段階、性別、気になる児童であるか否かといった点に配慮する必要があるだろう。

*キーワード 東日本大震災 緊急支援 スクールカウンセリング

*タケカワカツコ、トマルケイコ

H3

東日本大震災による避難児童へのグループミーティングの取り組み

—話られた内容とグループで語ることの意義—

都丸けい子(平成国際大学) 竹川佳津子(東京国際大学)

1 活動の経緯と目的

東日本大震災に伴う原発事故により、2011年3月末にA県B町民はC県D市へ集団で避難した。転入児童の通う某小学校では、9月までに3回の個人面接を実施した。すると「教師についての思い」の語りが増えていること、また転入以降普段の生活で教師や通学について語る際、大人が想像する以上に子どもたちが積極的に関与していることが明らかになった。これら結果を踏まえ、小集団でのグループミーティング(以下、「Bの会」)を実施することとした。B町から派遣された先生方の「B町のことを忘れて欲しくなっ」という願いも実施の機軸となった。そこで本研究では、「Bの会」話られた内容の分析および同会の持つ意義についても検討を行うこととする。

2 方法

【予備会】各学年の学級担任に事前に依頼し、実施され、該当する児童に対して「Bの会」への参加を呼び掛けてもらった。実施にあたっては事前に管理職やB町から派遣された先生と十分に話し合い、全副職員および当該児童の保護者から同意を得た。**【対象者】**E小学校に転入してきた児童で、10月22日時点で在籍していた児童59名(男児33名、女児26名)。**【実施時期】**2011年10月27日～2012年1月22日に分けて計19回実施した。**【実施時間】**原則として放課後、学年ごとに小グループに分け、週に1回実施した(各学年2～3回の実施)。1回当たり約15～20分程度。**【実施場所】**E小学校校舎内**【実施のねい】**初めに、「Bの会」を安全な場とするために「3つの約束(①何を話しても良い、②話した人の話を聴くまで聴く、③聴いた話は相談室に置いて読む)」について副担任アソシエーター(筆者ら)から子どもたちに伝えられた。その後、子どもたちから自由に「話したいテーマ」を挙げてもらった。もしも、その後の語りの中でテーマとずれてしまうようなことがあっても、制とはせず自由な語りを促した。

3 結果

(1) 語りの数：全19回の実施より得られた語りの総数は213であった。学年ごとに1回の平均の語りの数を求めたところ、1年生～6年生の順に8、10.7、12、9.6、12.7、14.3となった。
(2) 話られた内容の分析：得られた213の語りをさらに内容のまとまりで区分した結果、241となった。「(見聞)なし」等の発言を除く

230を分析対象とし、KJ法を用いて検討した結果、「1、自然・風景」、「2、人物や物のやり取り」、「3、震災と震災に伴う体験」、「4、変化」の項目が得られた。「1」は(1)自然、(2)町の名所、「2」は(1)家族、(2)学校・先生、(3)友人、「3」は(1)震災、(2)原発、(3)避難、(4)喪失体験、(5)再会の思い出・経験から成り立つ結果をTable 1に示した。なお、複数項目に重複した語りは21であった。

(3) 話られた内容の学年ごとの特徴：最終的に内容を要点を当てたところ、1,2,5年生は「3」、3年生は「4」、4年生は「1」、6年生は「2」に関する語りが多く認められた。

4 考察

(1) 語りの数：基本的には年齢が上がるにつれて1回の語りの数が多くなる傾向があることがわかった。なお、4年生はゲームを促す児童が数多くいたためゲームが頻りに変わることがあり、語りの数の減少に結びつくと考えられる。アソシエーターの配慮すべき課題である。

(2) 話られた内容と各学年ごとの特徴：特に注目すべき点として、「4、(自身に生じた)変化」が3、5年生にのみ認められた点について考察する。3年生は「3.11を忘れない会」の活動の過程で「Bの会」を実施した。そのため、この一年で生じた変化に焦点が当たりやすい状況にあったことその背景として挙げられる。一方、5年生は同会開催後の実施があったため、特に「喪失体験」が再燃されやすい状況にあったと考えられる。しかし、同時に「4、変化」についても語りがなされ、ここから子どもたちの持つ強さを伺うことができる。

(3) 意義と課題：E小学校ではB町から派遣された先生方のアソシエーターが非常に多く、また管理職の積極的な姿勢があったために、年間を通して転入児童に対して十分な取り組みがなされた(Table 2)。このことは不慮を承える児童への早期の取り組みへと繋がり、さらに「3.11を忘れない会」が薄りなく継がれたことにその成果が現れていた。なお、「Bの会」は2012年度以降も継続実施されており、児童全員から会の継続を希望する旨の語りがなされている。今後の課題は以下の3点である。①安心・安全な場づくり ②目的・効果の検討)を継続すること、③関心・意欲の度合いの異なる児童への対応、である。

Table 2 学年ごとの実施した「Bの会」の回数

	Table 1 語りの内容の分析											
	1. 自然・風景			2. 人物や物のやり取り				3. 震災と震災に伴う体験				
	(1) 自然	(2) 町の名所	(3) 震災	(1) 家族	(2) 学校・先生	(3) 友人	(1) 震災	(2) 原発	(3) 避難	(4) 喪失体験	(5) 再会の思い出・経験	合計
1年生	1	2	3	4	-	1	7	5	-	2	2	19
2年生	2	3	4	-	4	3	9	1	-	3	2	24
3年生	-	4	4	-	3	9	12	1	-	4	-	34
4年生	24	17	40	2	4	9	14	-	-	2	-	112
5年生	2	-	2	3	3	3	4	4	9	14	-	59
6年生	3	7	12	-	15	19	16	-	-	-	-	72
計	43	33	72	2	31	41	57	4	17	27	4	241

Hグループ

J-1 東日本大震災による避難児童への学校における取り組み

—スクールカウンセラーを中心に—

竹川佳津子 (加須市スクールカウンセラー)

1 経緯と目的

東日本大震災による原子力発電所事故の影響を受けたA町はB県に集団で避難することになり、避難児童105名がC小学校へ転入した。筆者はスクールカウンセラー(以下、SC)としてC小学校で避難児童のこころのケアに携わり、3年が経過している。第1に教員の希望から児童の状態を把握するために個別面接を始め、第2に児童の希望から自由に児童の思いを表出する場を提供し、第3に児童、保護者、教員のそのときその場での課題を解決するためにカウンセリングを行った。これらの活動の内容を報告するとともに、そのような支援を行ったことよって、明らかになった児童の状態とその変化を報告し、今までの支援と今後の支援について考察を行いたい。

3. 方法

① 個別面接:[対象者] 避難児童平成23年度1学期85人、3学期57人、平成25年度50人。[面接時期] 平成23年度 1 学期(5~7 月)、3 学期(1~2 月)、平成25 年度(9~12月) [質問項目] 地震の怖さ・想起、津波の怖さ・想起、原発の怖さ・想起、生活困難、学校困難については4 件法、身体・気持ちの変化については2 件法で回答を求めた後、その質問内容に関して自由な語りを促した。② グループワーク:[対象者]開始時に在籍していた 59 人で開始した。[面接時期] 平成23年10月~平成26年2月。[実施の流れ]「3つの約束(①何を話しても良い②話す人の話を最後まで聞く③聞いた話は内緒にする)」をSCから児童に説明し、児童らで話したいテーマを決めて、自由な語りを促した。③ カウンセリング:[対象者]

保護者自身が希望した場合、保護者が子どもの面接を希望した場合、個別面接の中で児童がカウンセリングを希望した場合、教員が必要だと判断した児童。[面接時期] 平成23年度~平成25年度。[面接方法] 言語のやり取りと描画。

3 結果

① 個別面接:(量的分析) 平成23 年度から25 年度にかけて、地震と津波と原発の恐怖・想起はいずれも大幅に減少した。なかでも、地震恐怖、津波恐怖、原発恐怖の3 項目は有意な減少であった。しかし、生活困難と学校困難は時間の経過とともに困難が増加したとの回答が多かった。身体の変化は時間経過しても同様の結果であった。気持ちの変化を感じる回答が緩やかに減少した。(質的分析) 地震や津波については平成23年度1 学期には、客観的な体験が主に語られたが、3 学期には、怖さを主にした感情体験が多く語られた。原発についてはいずれの時期も「知らない・わからない」が上位であった。身体の変化については平成23年度1学期には身体の不調がほぼ全てを占めたが、3 学期には激減し、25 年度には調子の良さ成長を訴える内容が大半を占めた。気持ちの変化については、平成23 年度1 学期には、ダメージを訴えるネガティブ感情が大半であったが、時間の経過とともにネガティブ感情は減少し、いろいろな気持ちの訴えに分かれた。地震と津波を語る言葉の長さは、平成25 年度には1/2、原発、身体の変化、気持ちの変化を語る言葉の長さは1/3 に減少した。② グループワーク:平成23年度は計19回実施。10月に開始し、2 月までは双葉町の思い出、良いところ、学校、遊び、友だちといったテーマについて

て語り合ったが、2月には児童からの提案で双葉町の絵を描いた。平成24年度は計7回で、テーマを決めて双葉町のことを話し合う回が大部分であったが、9月から児童の希望により少人数で双葉町の絵を描くことが始まって12月まで続いた。平成25年度には、児童の希望で絵を描く回と話し合う回があっ

た。語りの内容は、双葉町についての気持ち、風景、地形、気候、あったもの、被災、避難、自分がしたこと、誰かとしたこと、家の人がしたこと、今との違い、困難、が主な内容であった。

③ カウンセリング：児童の相談は、友だちのこと、家のこと、自分自身のこと。保護者の相談は、学校での様子、登校しぶりや不登校、問題行動や症状。教員の相談は、児童の生活状況、登校しぶりや不登校、身体の不調の訴えが主な内容であった。

4. 考察

① 個別面接：地震、津波の恐怖や想起の度合いは時間の経過とともに減少しているが、語りの内容を見ると、最初は客観的な体験の説明が多く、怖さという感情体験が語られるのは3学期になってからである。これは、感情が語れるようになるには、体験に距離が取れてからであることを特徴的に示している。原発については、実際に体験し

ていないためにそのような特徴は見られない。生活困難がいったん増加しているのは、生活の場が避難場所からアパートに移ったためであり、勉強の困難が増加しているのは、学年が上がったためだと考えられる。身体の変化が減少していないのは、不調の訴えから成長の訴えに変わったからであり、児童ならではの内容である。気持ちの変化の内容はネガティブな感情の減少であった。このように、量的内容と質的内容の両方によって、児童の状態の変化を詳しく知ることができる。② グループワーク：児童が自由に語れる場と時間を提供したことによって、児童は毎回生き生きと参加し、そのエネルギーが描画へと向かって行った。大部分の児童が平成25年度の参加を希望し、教員の賛同も得られたことから意義のある活動であったと言える。③ カウンセリング：相談対象は、全体の傾向とは異なる傾向についての内容が主であった。全体を対象としての調査によって全体傾向を把握し、個別に対応すべきケースについてカウンセリングを施行することが重要だと言える。このような3つの活動を連動させることにより、児童を理解して対応するという支援が継続できたと考えている。

7. 埼玉教育(平成27年第5号)の原稿(平成27年1月)

「指導と評価」の工夫・改善 実践論文

東日本大震災による避難児童への支援
～スクールカウンセラーとして～

平成23年4月初めに多くの被災児童が転入した小学校における3年間の活動を振り返り、学校全体の取り組みとSCの支援活動の内容を報告し、被災児童の状況とその変化、および、活動全体で得た知見についてまとめたい。



加須市スクールカウンセラー 竹川佳津子

1 はじめに

東日本大震災による原子力発電所事故の影響を受けた双葉町民約1200人は役場の機軸と共に、さいたまスーパーアリーナを経て、平成23年3月30～31日に加須市内の旧駒西高校に移動し、集団で避難生活を送ることになった。被災児童100人余りは、急遽地元の新西小学校へ転入学することが決定したが、震災により心身に大きな影響を受け、故郷を離れ、慣れない避難生活が続く児童に対して、緊急に心のケアが必要であった。筆者がスクールカウンセラー(以下、SC)として配置され、3年余が経過している。以下に支援の概要を報告する。



双葉鉄道

2 小学校の取組

平成23年3月末、駒西小学校は、双葉南・北小学校の児童を区域外就学として受け入れるための準備を開始した。避難者の出入りが激しく、児童数が確定しない中、4月6日には、学校説明会・見学会を開き、集めた学用品やランドセル、入学式の服(親子)を希望者に提供した。学級増に伴う学級編成、不足している机・椅子の調達、教員の欠員補充など様々な課題があったが、8日には無事に始業式・入学式を迎えることができた。しかし、連日マスコミや国内外からの問い合わせに加え、多くの支援物資が届き、その対応に追われた。避難所で学習指導を行っていた福島県の併任教諭が5月16日に着任し、校内での支援体制を整え、放課後学習会の開設や「ふたばっ子便り」の発行に取り組んだ。また、現状を把握するために担任による保護者との面接が行われた。小学校は一貫して●●児童●分け隔てない対応を心がけ、元気・笑顔を取り戻す学校行事がたびたび計画された。2学期の運動会では双葉音頭を全校ダンスに採択、双葉南・北小学校の校歌が鼓笛隊によって演奏された。3月には「3.11を忘れない会」が全校児童参加で行われ、年度末には被災児童の作文を集めた「ふたばっ子文集」が作成された。

2年目は新入生6人を含む53人、3年目は新入生6人を含む47人と被災児童数は減少したが、2

年目も併任教諭を中心として、放課後学習会が継続、運動会の双葉音頭や校歌も継承され、3.11集会も行われた。3年目には、3.11集会や夢や目標をテーマとした文集作りに取り組み、全体の児童への放射線教育や道徳教育にも力を入れた。

3 スクールカウンセラーとしての支援

(1) 支援

初日の4月16日、教職員の協力により相談室が整備され、それを相談室便りが発行され、支援活動がスタートした。「児童の状況がよくわからない」という担任の声を受け、5月末から児童に個別面接を行った。そのなかで「双葉の友だちだけで集まって話したい」という要望が児童から出てきたため、少人数で集まって自由に発言できる場としてグループワークを行うことにした。相談を希望する児童、教職員、保護者には随時カウンセリングを行った。



相談中

家庭への連絡や報告は、家庭向けの相談室便りや「ふたばっ子便り」を通じて行った。教職員には教職員向けの相談室便りを発行するとともに、支援策の検討のために、併任教諭を中心とした教職員との話し合いを行う機会を設けた。さらに集団活動における児童の様子を理解するために時間を見つけて教室訪問を行った。



相談室だより

2年日以降も相談室を拠点として、個別面接を行って児童の状況や要望を把握し、グループワークは必要性を吟味しながら継続実施し、相談活動の報告は相談室便りを通じて行った。また、カウンセリングについては随時対応し、教職員との話し合いや教室訪問も1年目と同様継続した。



グループワーク

(2) 支援の結果

A 個別面接:

地震の怖さ・想起、津波の怖さ・想起、原発

の怖さ・想起、生活困難、学校困難、身体・気持ちの変化について回答を求めた後、その質問内容に関して自由な語りを促した。1年目の1学期は地震、津波、原発の恐怖の度合いが大きいという回答と、繰り返し思い出すという回答がとて多かったが、3学期にはかなり減少し、3年目にはわずかになった。しかし、その恐怖の様相を具体的に言葉として児童が語ったのは3学期以降であった。原発の恐怖に関してはいずれの時期も「わからない」が大半であった。

家庭生活に困難を感じる割合は、1年目は全体的に少なかった。2学期にはアパートに移る家庭が多く、「狭い住まいへの不満」のため割合が増したが、その後は減少した。

学校生活で困難を感じる割合は、3年間を通じて少なかったが、学年が上がり学習内容が難しくなったとの訴えがあった。身体の変化について、1年目は不調の訴えが多かったが次第に減少し、3年目には身体の調子の良さや成長を語る児童が過半数になった。気持ちの変化について、1年目の1学期は非常に多くの児童が「さみしい」「悲しい」などのネガティブな感情を訴えたが、3年目には半分以上に減少した。平成23年度と25年度を比較すると、地震・津波・原発の恐怖及び想起、気持ちの変化に関して、統計的に有意に減少した。各質問に対する語りの長さは、時間の経過とともに大幅に減少した。

イ グループワーク：

3年間を通して、双葉町に関する身近な話題が大部分であった。1年目はテーマを決めて話し合うことが主流で、その内容は双葉町の良さや特別性であった。2年目は途中から双葉町の絵を描きながら話し合いを重ねた。3年目は参加を希望した児童が集まって双葉の思い出や将来のことを話し合った。

ウ カウンセリング：

児童の相談内容は、1、2年目は「友達のこと」「自分自身のこと」「家のこと」が多かったが、3年目には「将来のこと」が加わった。保護者の相談は3年間を通して「子供の学校での様子」「不登校や登校しより」「集団行動への不適応」が主で、職員は「児童の理解」「不登校や登校しより」「問題行動」に集中した。いずれも相談件数は1年目に多く、特に1年目の内容は深刻であった。

4 児童の様子とその変化

平成23年3月末に100人を超える児童が転入するという緊急事態にもかかわらず、保護者や他団体の協力により、4月の早い段階で学校生活に必要な用品が揃い、地元児童と同じように新年度をスタートすることができた。また、学習に関しては、震災から4月まで学習の機会がなく、前学年のまとめが終わっていない状態であったが、併任教諭による学習支援を得て、1学期の間に崩れていた学習習慣を取り戻した。

しかし、避難所での生活と、知らない学校での生活という慣れない環境の中で、5月の連休まで

はいつも被災児童の誰かが泣いているという状態であった。1学期の間、生活リズムが乱れ朝起きられない児童、夏が近づくと慣れない暑さで体調を崩す児童が出た。6月には保健室を訪れる被災児童は全児童の30%（全児童の17%が双葉児童）を占め、頭痛、腹痛、倦怠感の訴えが多く、保健室で仮眠をとる児童が目立ったが、2年目には減少し、3年目の同月には15%（全児童の11%が双葉児童）に減少した。

このような背景には、生活場所の変化も関係していた。1年目の1学期は大部分の家庭が旧制西高校での集団避難生活によりプライベートが守られ難い状況だったが、夏休みに期に周囲のアパートに引っ越す家庭が増え、3学期はじめには8割強の家庭がアパートに移った。3年目には約5割の家庭が一戸建てで生活するようになった。

5 考察と提言

被災児童が早い段階で学校生活へ適応していったのは、管理職を中心とした教職員、併任教諭などの協力によるところが大きい。筆者はSCとして、相談室を拠点として、児童を理解しようとして実施した個別面接により、グループワークやカウンセリングという支援策が見つかり、新たな支援を行うことによって、さらに児童の理解を深めることができた。そこには、教職員との連携が欠かせないものであった。把握した児童の状態を教職員に報告し、教職員との話し合いによって支援策を見つけていくことを繰り返したことにより、管理職を中心として、併任教諭・教職員・SCが協力して、学校全体でチーム支援を行う体制が整っていった。

3年間のSCとしての活動を振り返り、常に学校の教育活動全体を視野に入れて動くことの大切さを学んだ。相談室という場を得て、相談室便りを通して周囲とつながり、個別面接、グループワーク、カウンセリング活動ができたのは、教職員との話し合いや教室訪問によって学校教育と連動することができたからである。教育相談の充実を図るためには、学校や関係機関等と連携・協力をしながら、教育活動のひとつとして機能することが重要である。

6 今後の課題

時間の経過とともに多くの児童に適応をしていく様子が見られた。しかし、時間が経過しても地震や津波を恐れ、繰り返し思い出すと訴える児童が少数ながら存在する。全体的な傾向を捉えながら少数派の児童への対応も忘れてはならない。また、トラウマ反応は長い年月を経て出現する例もあり、支援の継続が求められる。さらに、時間の経過によって、年齢による体験の差が広がっており、児童や家族それぞれの思いも多様化しているため、個々に応じた支援が求められるところである。震災後5年が近づき併任教諭やSCの今後の体制についても課題が残されている。

8. 関係者の感想や意見

(1) A先生

平成23年度

- ① 被災・避難児童へ支援するにあたり、心がけたこと
 - ・避難所という他人が混在している中、子どもたちが自立していく環境を整えるために、子ども達のルールを決める。
 - ・児童一人一人の実情に応じて個別に関わっていく。
 - ・今、できる事があるから私たちは騎西にいる（子どもがいる所こそ私たちがいる価値がある）ことを4人で確認し、子どもに寄り添い支援していく。
- ② 被災・避難児童の支援を行って、困難に感じたこと
 - ・避難所の中で、一つの教室にいくつかの家族が同居する形の中で、親が他人を気にするあまり、子どもしかる、または注意することができず、子どもたちが自由、きままになっていた。
 - ・騎西高校内の子どもたちのルールを決めたが、指導が必要な児童、生徒がいた。
 - ・不登校傾向の児童、体調不良の児童が初めのうち多く見られた。
 - ・4月中は騎西小の教師ではなかったため、子どもたちが学校でどのような学校生活を送っていたかよく分からなかった。
- ③ 被災・避難児童の支援として、功を奏したと感じる取り組み
 - ・私たち4名が騎西小へ赴任したことで、子どもたちの不安が少しずつ解消されてきたと思われる。
 - ・1年後に作文集を作成したことで、自分を見つめる機会ができた。
 - ・3. 11を忘れない会で、双葉町のことを騎西小の子どもたちに理解してもらう機会を持てた。
- ④ 騎西小学校での指導を振り返って全般的な感想
 - ・騎西小学校の先生方と児童の共通理解を図り、全面的に支援・協力を頂きながら指導できた。
- ⑤ もともと在籍している騎西の児童に対して配慮したこと
 - ・初めのうちは双葉町の子どもたちを気にかけて指導・支援に当たってきたが、後半は分け隔て無く指導してきた。
- ⑥ もし同じような事態が発生したら、こういう配慮が必要だという内容
 - ・子どもたちは、環境に慣れるのが早い。避難生活が長引く中、保護者の精神的な負担も大きかったと思われる。教師がその役割を負担するのは大きいのですが、それを和らげるような配慮が必要と考えます。
- ⑦ その他

(2) B先生

平成23年度

① 被災・避難児童へ支援をするにあたり心がけたこと

- ・さいたまスーパーアリーナでは安否確認に徹した。勉強は大学生が子どもの学校で見てくれたので、勉強以外の支援をした。
- ・5月9日に辞令が降りるまでは、勉強以外の支援に徹した。
- ・さいたまスーパーアリーナ、旧騎西高校では、一緒に生活をした。弁当出し、見回りなど。安否確認が落ち着いた頃、旧騎西高校の生活が乱れたので、生活の仕方の決まりを作った。
- ・辞令が降りてから、心配な子の世話を徹した。小学校に行くのを渋る児童を旧騎西高校に迎えに行った。
- ・辞令が降りて、低中高に分かれて高学年担当になったが、自分の中では高学年担当という意識はなく、目の前にいる心配な子どもに対して、何かあったらその子に対応した。
- ・辞令が降りてから、勉強を教えた。
- ・最初のころは、学校に知っている人がいると安心するだろうと思って、対応していた。
- ・一緒に避難している身の上なので、同じ立場で被災者のケアをしようと思った。他の3名の先生も同じ双葉町の先生で、同じ被災者で、家に帰れない人だったので、同じ立場で支援できた。言わなくても分かり合えるものがあつた。
- ・子どもを呼んで何かするという事はなかったが、何かあったらその子その子に対応した。

② 被災・避難児童へ支援をするにあたり困難に感じたこと

- ・子どもに泣かれ、何をしていたかわからなかった。
- ・辞令が降りるまでは、避難所での生活指導を中心に行った。
- ・保護者は、知っている顔なので、生活の相談や進路相談をしてもらうことが多かったが、何とも言えない仕事だった。
- ・双葉町の子どもを特別扱いするのかが難しかった。特別扱いが必要な時もあった。特別扱いしないでみんなと同じ対応でいいのか、切り分けが難しかった。甘えを認めてよいか甘えさせてはいけないのか
- ・騎西小学校の先生も、子どもにどう接していいのか、戸惑っているところがあった。
- ・福島から避難してきているので、お世話になっている感謝の気持ちと申し訳ない気持ちがあった。

③ 被災・避難児童への支援として、功を奏したと感じる取り組み

- ・登校しぶりや泣く児童の中には、双葉町の時から同じ状態だった児童がいたので、同じように対応した。

④ 騎西小学校での指導を振り返っての全般的な感想

- ・何もかもが手探り状態であった

- ・ 1学期はすごかった
- ・ お金、仕事、家などの不安があった
- ・ 物は足りていたと思う。足りていないのは何かがわかりにくかった
- ⑤ もともと在籍している騎西の児童に対して配慮したこと
- ⑥ もし同じような事態が発生したら、こういう配慮が必要だという内容
- ⑦ その他

平成24年度

- ① 被災・被避児童へ支援をするにあたり、心がけたこと
 - ・ 校内での授業を行うった
- ② 被災・避難児童の支援を行って、困難に感じたこと
- ③ 被災・避難児童への支援として、功を奏したと感じる取り組み
- ④ 騎西小学校での指導を振り返っての全般的な感想
- ⑤ もともと在籍している騎西の児童に対して配慮したこと
- ⑥ もし同じような事態が発生したら、こういう配慮が必要だという内容
- ⑦ その他
 - ・ 併任教員どうしで、将来の双葉について、子ども達の将来についてなど議論したり、話し合ったりする機会を多く持った。
 - ・ 双葉小学校の再開の方向性が出てきた。

平成25年度

- ① 被災・被避児童へ支援をするにあたり、心がけたこと
 - ・ 双葉町の児童がどうということがなくなった。
 - ・ 道徳教育を中心に夢や希望を持たせようと試みた。
- ② 被災・避難児童の支援を行って、困難に感じたこと
- ③ 被災・避難児童への支援として、功を奏したと感じる取り組み
- ④ 騎西小学校での指導を振り返っての全般的な感想
- ⑤ もともと在籍している騎西の児童に対して配慮したこと
- ⑥ もし同じような事態が発生したら、こういう配慮が必要だという内容
- ⑦ その他
 - ・ 双葉町関連以外の仕事も増え、震災前の仕事に戻りつつあった。

(3) C先生

平成23年度

1 1学期に関して

① 被災・避難児童への支援をするにあたり、心がけたこと

4月になるまで子どもたちと顔を合わせなかったので、4月1日に避難所で久しぶりに再会した子どもたちの表情は、今でもまざまざと思い出されるほど印象深いものでした。

その後、福島県と埼玉県との協議を経て、五月中旬から正式に騎西小学校に勤めることとなりますが、それまでの数週間は避難所での支援を続けていました。このときに心がけたことは、「日常に少しでも近く」でした。小学生・中学生は学校が始まると学校生活が中心になり、それに合わせた生活リズムになりましたが、高校生は未だに受け入れや進路が決まらず、精神的に不安定な状態で生活を続けており、ネット依存や深夜徘徊などが見られ、住民自治会のボランティアとの協力しての自治的な見回り、夜間の学習会の監督などを進めました。

② 被災・避難児童の支援を行って、困難に感じたこと

双葉町の小学校は2校あり、南北それぞれから最大100名を超す児童が騎西小学校で学びました。自分の勤務していた双葉北小学校の児童でも他のクラスの児童とは会話をすることがなかなかなく、まして、双葉南小学校の児童とは町内の学校行事で見かける程度だったので、どのようにコミュニケーションを図り、信頼を得ていくか苦勞しました。

③ 被災・避難児童への支援として、功を奏したと感じる取組

校長先生の「ふたばの子どもも、騎西の子どもも皆同じに」という方針は非常にありがたかったです。双葉町を遠く離れて暮らす子どもたちにとって、学校は校舎が変われども生活の仕方がよく分かっている場所になり、学校生活を送る時間は安心して夢中になれる時間でした。友だちも増え、楽しく生活できていたように思えます。

また、放課後の学習教室も子どもたちの様子を観察するのと、学習の状況を把握するのに大いに効果がありました。利用していたのが双葉町の子どもたちがほとんどなので授業とは違った気安さがあったように思います。また、異学年の双葉町の子どもたちを認識することができるようになり、1年生も心強く感じているようでした。

5月に正式に騎西小学校教諭として勤務するまでも、避難所から小学校までの送り迎えに随行していたので、子どもたちは私たち併任教師に信頼して安心して話をしていたように思います。

④ 騎西小学校での指導を振り返っての全般的な感想

埼玉県の全体がそうなのでしょうが、福島県の教員の年齢構成よりもはるかに平均年齢が低く、若い先生方が多いのが最初の印象でした。騎西小学校はベテランの先生方もおられましたが、ベテランの先生方から若手の先生方への「教師文化」の伝達がうまく伝わっていないように感じました。

そこで、併任教師がその溝を埋めるような役割をすればよいのではないかと自分では考

えて行動していたように思います。

また、毎朝、校門でのあいさつ運動は児童の様子を観察したり、登校状況を観察したりするのに実によかった。被災児童もあいさつをすることで学校になじむことが早まったように思います。

⑤ もともと在籍している騎西の児童に対して配慮したこと

③で述べたように校長先生の方針の基に、どの児童に対しても同じく接することが大事ではないかというスタンスは最後まで貫けたと思います。特に配慮しなかったことが配慮かと思いました。強いて配慮したとすれば、双葉町の子どもたちの気持ちについて分かりやすくかみ砕いて説明する機会があったことかと思います。

⑥ もし同じような事態が発生したら、こういう配慮が必要だという内容

今回の東日本大震災・原発事故に伴う双葉町全体の他県への避難ということは、今後は起きないでもらいたいですが、もし、生まれ育った郷土を離れて生活するようになった場合は、できるだけ児童を受け持った担任が近くで見守ることが初期の段階では重要だと思います。担任がそばにすることが児童に対して安心や信頼を与え、担任が他人をコーディネートすることで子どもたちも安心して他の児童や先生方と交流をすることができると感じました。

また、教員とは別の立場でスクールカウンセラーが子どもたちとの関わっていただいたことも効果的でした。

2 2学期に関して

① 被災・避難児童へ支援をするにあたり、心がけたこと

2学期は学習面での双葉町での指導の違いや生活面での乱れについての対応を心がけました。児童の保護者から「双葉町にいた頃と先生方の指導の仕方が違う」「先生の教え方が分からない」という声を聞くようになりました。避難生活が一区切りして少し余裕が出てきて、子どもの様子を心配できるようになったと思います。

騎西小学校の先生方は若い先生が多く、双葉町で受けていた指導との違いが多かったからだと思います。双葉町の地方や福島県では埼玉県の先生方よりも学習面でも生活面でも一歩二歩ぐらい児童に歩み寄って指導をしていたのですが、その点、指導の仕方が違うので、保護者が物足りなさや不安を持っていたようです。

また、児童たちも避難生活が長期化して、生活に刺激が欲しくなり生活が乱れる子どもが見られるようになりました。生活支援物資があることが当たり前になり物を粗末にしたり、時間や宿題にルーズになったりしました。

そういう状況で考えたことは、「双葉北小学校で指導していればどうしたか」ということでした。そういう考えで子どもたちには「双葉町にいるときと違うんじゃないの」という言葉かけとともに指導してきました。

② 被災・避難児童の支援を行って、困難に感じたこと

2学期は騎西小学校から転出する被災・避難児童が多く、今後もこの傾向が続くことが予

想されました。親の仕事の関係や福島県に戻るために騎西小学校を去るのですが、友だちに残されたことや友だちがいなくなってしまう喪失感が悪い影響を与えないように配慮したように思います。

③ 被災・避難児童への支援として、功を奏したと感じる取組

併任教諭4人のうち誰かは、毎日、双葉町教育委員会に顔を出すことになっていたのですが、福島県や双葉町の行政との児童への支援が非常に緊密に行えました。避難所開設以来、双葉町教育委員会と教員とはそれぞれの情報を共有して子どもたちに対応できるベストマッチな関係で取り組めたと思います。また、スクールカウンセラーとも常に情報を共有できるようにしていたことは振り返ってよかったと思います。

④ 騎西小学校での指導を振り返っての全般的な感想

騎西小学校の先生方と親しくなったのもこの頃からでした。1学期には、なかなか打ち解けない時もありましたが、2学期に入り、市の委託研究発表などに全員で取り組んだ結果、協力体制が強固にすることができ、児童への指導も効果的に進められるようになってきました。

⑤ もともと在籍している騎西の児童に対して配慮したこと

在籍していた児童の性格や状況も把握でき、双葉町の子と騎西地区在住の子とのトラブルや問題行動を起こした児童に対しても積極的に指導できるようになっていきました。

⑥ もし同じような事態が発生したら、こういう配慮が必要だという内容

特になし。

3 3学期に関して

① 被災・避難児童へ支援をするにあたり、心がけたこと

3学期になり、3.11が近づき、区切りとして「3.11を忘れない」の会を行いました。スクールカウンセラーの先生の助言のもと、フラッシュバックをさせず、心の中で区切りをつくる上で必要なイベントだったように思います。子どもたちも落ち着いて参加していました。新聞やテレビでも震災や原発事故を取り上げて特集を組むことが多くなりました。子どもたちの前では教師の方からは震災や原発事故についての話題を話すことはせず、子どもたちから出た場合は自然に受け止めて返すことを心がけました。

また、卒業式に対しても昨年、できなかったことを振り返り、式を挙行できる幸せや騎西小学校への感謝の気持ちを持って卒業できるように卒業生である6年生に話しました。

この3月を持って、併任していた4人のうち3人が福島県に戻るようになっていたので、次の併任者にスムーズに引き継げるように、また、児童らが不安にならないように配慮しました。

② 被災・避難児童の支援を行って、困難に感じたこと

特にはありません。

③ 被災・避難児童への支援として、功を奏したと感じる取組

この1年間で振り返って1冊の文集にまとめましたが、ようやく振り返ることができた

ように思います。また、児童だけでなく保護者からの言葉も載せることで、それぞれが感謝と前向きな気持ちで次年度を迎えようとする事ができたように思います。

④ 騎西小学校での指導を振り返っての全般的な感想

どの学校でもそうですが、卒業シーズンは感傷的になります。震災や原発事故がなければ埼玉県で教えることもなかっただろうと思うと感慨深いものがありました。騎西小学校教諭としてのこの10か月間は、非常に刺激的で自分自身の成長にも大いになった期間でした。

⑤ もともと在籍している騎西の児童に対して配慮したこと

特にありません。

⑥ もし同じような事態が発生したら、こういう配慮が必要だという内容

特にありません。

⑦ その他

(4) E 先生

平成24年度

- ① 被災・被避児童へ支援をするにあたり、心がけたこと
 - ・初めての双葉町の小学校勤務で比べるものがないのでそのまま受け入れた。
 - ・あまり福島を意識しないでふたばっ子が早くこの地に馴染むことに主眼を置いた。
- ② 被災・避難児童の支援を行って、困難に感じたこと
 - ・子どもは周囲に気を遣っていた。
- ③ 被災・避難児童への支援として、功を奏したと感じる取り組み
 - ・双葉町民を特別扱いしないと言うのが騎西小学校の方針だったから、騎西小学校になじめた。
- ④ 騎西小学校での指導を振り返っての全般的な感想
- ⑤ もともと在籍している騎西の児童に対して配慮したこと
- ⑥ もし同じような事態が発生したら、こういう配慮が必要だという内容
- ⑦ その他

平成25年度

- ① 被災・被避児童へ支援をするにあたり、心がけたこと
 - ・福島の子どもたちが落ち着いたのが分かったので、逆に福島を忘れないようにということ意識した。
 - ・福島の良さや福島の風土、福島の地名など、福島の地が子どもたちをある年齢まで育ててくれた。やがて定住の地として福島に戻る人もいるだろう。福島のことを学ぶことも大切だと思った。
 - ・福島には学力向上のために、国理算の応用問題があるので、福島に戻った時に発展問題ができるように配慮して、放課後と週末に応用問題の学習プリントを行った。
- ② 被災・避難児童の支援を行って、困難に感じたこと
- ③ 被災・避難児童への支援として、功を奏したと感じる取り組み
- ④ 騎西小学校での指導を振り返っての全般的な感想
- ⑤ もともと在籍している騎西の児童に対して配慮したこと
- ⑥ もし同じような事態が発生したら、こういう配慮が必要だという内容
 - ・併任の教員は、先生でありながら、地域住人の一人として子ども達の支えになる必要がある。例えば、入院して長期欠席している児童に対して病院へのお見舞いなどもそのひとつ。
 - ・震災による喪失の影響で、自然治癒力が減少する。その状態で何かがあると、魂が抜けた“もぬけの殻”の状態のようになってしまう。それが要注意。
 - ・自然治癒力の要素はいろいろな日常生活によって支えられている。地域の空気、自然、人。空気が自然がなくなった場合、先生が地域の人として存在することはできるし、それが必要である。

⑦ その他

- ・震災は、子どものこころの奥にずっと影響をしていると思う。それは地震によって失われたものであり、家やものやコミュニティ、アイデンティティと言ったようなものすべてが含まれる。たとえば、スパッと景色が変わってしまうという体験をしている。そういう影響は、不登校といった形には現れず、日常とは違う別な引き出しにしまわれるのではないかと思う。震災で失ったものの影響は、長い人生の中でその人の人となりに出てくると思う。それは親でさえも把握できないもの。学校は学校なので、震災によって失われたもののケアをするのは難しい。ただ、学校では、震災によっていろいろなものを失った中、自然治癒力が減少するのがわかった。そのような中、子ども達にとって望ましい支援は、学校と家庭が連携を図りながら、失われたコミュニティーを子ども達の前に提示することではないかと思う。たとえ、以前よりはるかに小さなコミュニティーであっても、先生と親が連携していく姿を見せることが子ども達の背中を押してくれる大きな力になるのではないかと感じた。

(5) H先生

平成25年度

- ① 被災・被避難児童へ支援をするにあたり、心がけたこと
 - ・派遣されている教員であるため、子どもたちを埼玉に預けているという感覚で支援した
 - ・通常は自分たちが教育目標をもって教育するが、被災児童については、騎西小学校の教育目標で教育は行われ、自分たちは側面指導を行うようにした
- ② 被災・避難児童の支援を行って、困難に感じたこと
 - ・指導をどの程度行っていいのか、試行錯誤の毎日です。
- ③ 被災・避難児童への支援として、功を奏したと感じる取り組み
 - ・4月の初めに併任教師3人で何をするかについて話し合いを持ったこと
 - ・支援の3つの目標を挙げた。それは、学習保障・道徳教育・心のケアであった
 - ・学習保障：放課後学習会のバージョンアップ、プリントの活用
 - ・道徳教育の充実：双葉町の児童に限らず、騎西小学校全体の児童の道徳の意識を高める
 - ・心のケアの充実：双葉町児童の家庭訪問、学期末の懇談会
 - ・併任教師3人で組織で行わなければならない、チームでスクラムを組むこと
 - ・双葉町の教員で情報を共有した。併任教諭以外の福島の先生もチームのメンバーとして、平等を心がけた。
 - ・目標は短期目標と長期目標を立てた。短期目標はそれぞれの目標、長期目標は上記3つの目標であった。
- ④ 騎西小学校での指導を振り返っての全般的な感想
- ⑤ もともと在籍している騎西の児童に対して配慮したこと
- ⑥ もし同じような事態が発生したら、こういう配慮が必要だという内容
- ⑦ その他

(6) I先生

平成23年度

- ① 被災・被避難児童へ支援をするにあたり、心がけたこと
- ② 被災・避難児童の支援を行って、困難に感じたこと
 - ・避難してからの再出発の生活は決して0からのスタートではない。いつも元の双葉の生活との比較になってしまうのが大変だった。
 - ・4月25日にいち早く騎西小学校に入ってみて、子どもたちの感じている疎外感を実感した。
 - ・3年生の音楽では、双葉の児童は鍵盤ハーモニカがなかった。忘れたわけではないのに、忘れた児童と一緒に歌を歌うよう指導があった。何も言えず歌っている児童をみて、早く学用品をそろえてあげるべきだと強く感じた。
 - ・鉛筆がたくさんあったが鉛筆削りがなかった。意外なものがないが気がつきにくい。
 - ・ジャージと名札をセットにして支給されたが、名札を付けるアイロンがなくて困った。
 - ・2年生の生活科の“大きくなったよ”の授業で小さい時の写真が必要だったが写真はなかった。絵で描くように騎西小学校の先生から言われたが、絵を描くのは難しかった。
 - ・遠足で“みんなのうた”の本がなかった。足りないものはないと思っていたが意外な盲点だった。
- ③ 被災・避難児童への支援として、功を奏したと感じる取り組み
- ④ 騎西小学校での指導を振り返っての全般的な感想
 - ・にこにこ相談室で絵を描きたい放題描いたことがとてもよかったと思う。
- ⑤ もともと在籍している騎西の児童に対して配慮したこと
- ⑥ もし同じような事態が発生したら、こういう配慮が必要だという内容
 - ・②のような困難は、実際に教室に入らないとわかりにくいので、教室に入る事が大切。
- ⑦ その他
 - ・被災して避難した体験は人の心にずっと残ると思う。
 - ・避難してお世話になっているという身の上なので、なかなか学校や先生にお願いがしにくい状況であった。

平成24年度

- ① 被災・被避難児童へ支援をするにあたり、心がけたこと
 - ・この先移転するかもしれないという可能性が出てきたので、そのことに向かうようになった。
- ② 被災・避難児童の支援を行って、困難に感じたこと
 - ・物や生活に困らなかったので、将来の不安が出てきた。
- ③ 被災・避難児童への支援として、功を奏したと感じる取り組み
- ④ 騎西小学校での指導を振り返っての全般的な感想
 - ・バラバラな感じがあった

- ⑤ もともと在籍している騎西の児童に対して配慮したこと
- ⑥ もし同じような事態が発生したら、こういう配慮が必要だという内容
- ⑦ その他

(7) 騎西小学校の先生

- ① 平常時の新学期新年度の準備に加え、物資がどんどん運び込まれ、マスコミの電話は鳴りっぱなし、避難児童の情報が二転三転して把握できない。各先生が五月雨式に対応していた
→チームを組んで組織で対応する必要があった。中心となる部署を作って、すべてを統括するような組織を編成していたら、当時ほど混乱しなかつたらう。
- ② 支援物資の面：最初は教育よりも物資の仕分けに追われた。なるべく早く子どもに対応したいが、支援物資の仕分けに追われた→支援物資を扱う担当を決めて役割分担が必要。
- ③ 被災児童の情報：児童転入してくる児童数や学年の情報が把握ができない、避難児童の情報が刻一刻と変わって、情報共有ができない、チームを組んで、情報の一本化を図ることが必要→情報担当が情報の一本化を図ることが必要
- ④ マスコミ対応：マスコミの電話が鳴りっぱなし、校長先生がマスコミに対応し、教頭先生が不在の場合、何もわからなくなってしまっていた。→マスコミ対応の担当が必要
- ⑤ 学校の物が不足：子どもの机、先生の机、配膳台などなにが不足しているのか把握できなかった→学校のハード面を把握する担当が必要。
- ⑥ 教員の不足：3つの学年はクラスが増えることがわかったが、少人数加配の先生しかいなくて、どうなるのか不安だった→人事面の担当が必要。
- ⑦ 対応窓口：校長先生がすべての窓口になったが、県の役所と外部からの対応が、大変だった→校長先生のサポート役が必要
- ⑧ 児童の転出：4月は転出が多くて連絡なしでどんどん移動した→児童の把握担当が必要
- ⑨ 学籍名簿：学生名簿が確定したのは夏だった→学籍名簿は双葉町の先生が双葉町に一時立ち入りして名簿をもってきてもらってやっと作成できた。学籍名簿をどうするかで困惑した。1週間しかいない児童はどう扱うのか。修学旅行や林間学校を学籍名簿なしで行っていいのか等。学籍名簿がないので児童が行方不明にならないようにとても気を遣った。学籍名簿なしに学校生活を行うのは前例がないこと→避難児童の学籍名簿をどうするかについてあらかじめ決まりが必要。
- ⑩ 4つの安心があった。
 - ・津波や地震で亡くなっていない地域という安心
 - ・役場と一緒に動いている人たちという安心
 - ・家族でまとまって避難している人たちという安心
 - ・双葉南小学校、双葉北小学校の先生が子どもと一緒に避難しているという安心→このような理解を共有する必要がある。役場や教育委員会との連携が必要。
- ⑪ 避難児童とのコミュニケーションの取り方に苦慮
 - ・出入りが多くて歓迎会やお別れ会ができない
 - ・受け入れ側の子どもたちはわくわくしたが、次々に転出する児童を見送り喪失感を抱いた。→立場の違いについて説明が必要

⑫ 受け入れ児童の戸惑い

- ・ 家族の話題をしていいのか。
- ・ 家のことを聞いていいのか。
- ・ 言ってはいけない言葉は何か。

→子どもたちに説明が必要

⑬ 受け入れ教師の戸惑い

- ・ 双葉町の先生と接する機会がなくてコミュニケーションが取れず困った。
- ・ 泣いている子を見て、今のことで泣いているのか、被災や避難のことで泣いているのかわからなくて困った。
- ・ 家庭調査票を見て、ひとり親家庭なのかどうか、家はどうなっているのか、わからず困った。
- ・ 双葉北小学校の先生が来てくれて、説明があった時にとっても助かった

→避難側の先生から、子どもたちの情報提供が必要

⑭ 避難側と受け入れ側の認識の違いについて

- ・ 避難側はお世話になっている立場として差異を認識して、肩身の狭さを感じる。一方で、受け入れ側はなるべく差異をなくそうと配慮する。→立場の違いへの理解が必要

(8) SC

- ① 特別な配慮を要する児童に関して、事前に情報把握をすることがとても重要だった。
- ② 被災児童や被災家庭、併任教諭、地元小学校の教職員、地元児童や地元家庭といった異なる立場をつなぐ役割を率先して担うのはSCの任務であった。
- ③ SCも教室に入って実際の現場で起きていることを把握する必要があった。初期に躊躇したり、遠慮したことを後悔している。
- ⑤ SCは、被災して避難している立場の人々への理解を深め、そのことを周囲にアナウンスし、温度差を少なくする働きかけに尽力しなければならない。
- ⑥ 管理職・併任教諭・教職員・養護教諭・ALT・非常勤職員など、異なる立場の人々が、チームになって支援することによって、関係者の方々の士気が上がるのがわかった。
- ⑦ SCは、チーム力やチームワークを高めるような働きかけを工夫することが大切で、それは、とてもやりがいのある任務であった。
- ⑧ 被災児童だけではなく、地元児童の支援も忘れてはならない。その程度や配分はとても難しいと感じた。
- ⑨ 被災児童を特別扱いするのかどうか、特別扱いが必要な場面と必要ではない場面がある。特別扱いが必要な場合はどの程度どこまでなのか、その見極めはとても難しいので、そういうときこそ、チームでの支援が大切だと感じた。
- ⑩ 被災児童の支援を通して、被災の体験・被災地のこと・被災者の立場・避難の体験・避難者の立場など、多くのことを教えられた。
- ⑪ 被災児童の支援に関わる前と後では、ものの見方や捉え方が大きく変容した。「被災児童に係るSC」として関係したすべての方々への感謝の気持ちをいつまでも持ち続けたい。